

vol. 03

令和元年度 第3号
(年間4回発行 通巻第153号)

組合活性化情報 中央会とくしま

新年特別企画

令和2年 新春対談

特集1

令和元年度 徳島県の労働事情

特集2

徳島県企業BCP認定制度認定証交付式・
BCPトップセミナーを開催

徳島県中小企業団体中央会 <http://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. 03

令和元年度 第3号
(年間4回発行 通巻第153号)

新年特別企画 令和2年 新春対談

株式会社商工組合中央金庫 徳島支店長 一ノ瀬浩道 氏
×
徳島県中小企業団体中央会 会長 布川 徹 氏

2

特集 1

令和元年度
徳島県の労働事情

7

特集 2

徳島県企業 BCP 認定制度
認定証交付式・BCPトップ
セミナーを開催

15

組合クロースアップ 第3回

協業組合 徳島印刷センター

19



有限会社
六車エンジニアリング

21



組合ホットニュース

25

- ◎協同組合日本茸師の会
化学肥料や農薬を使わない有機 JAS 規格の認証取得を推進
- ◎徳島市両国本町商店街振興組合
両国本町インバウンド阿波踊りを開催
- ◎徳島県味噌工業協同組合
アクア・チッタフェスタ 2019 で御膳みそを PR /
第 62 回全国味噌鑑評会で組合員企業 2 社が受賞
- ◎徳島製材団地協同組合
組合創立50周年「Next Stage 50th ～次の時代への躍動～」記念式典を開催
- ◎徳島県個人タクシー協同組合
徳島市と災害時における人員の輸送等に関する協定書を締結

- ◎協同組合徳島県機械金属工業会
協同組合鳥取金属工業会と組合間連携交流会を開催
- ◎徳島県木材買方協同組合
第11回児童木工工作「木とふれあうコンクール」表彰式を開催
- ◎徳島県中古自動車販売商工組合青年部
JU 徳島チャリティボウリング大会を開催



情報連絡員レポート

29

令和元年10月の景気動向



青年部コーナー

30

- ◎青年部活動トピックス
◇商工 3 団体次世代プロジェクト会議 防災関係視察研修◇ ほか



女性部コーナー

32

- ◎女性部活動トピックス
◇令和元年度レディース中央会全国フォーラム in 神奈川◇ ほか



中央会トピックス

34

- ◎徳島ビジネスチャレンジメッセ 2019 に出展
- ◎四国 4 県中小企業団体中央会合同ものづくり企業展示
談会を開催
- ◎第71回中小企業団体全国大会（鹿児島県）を開催
- ◎「中小企業等協同組合法施行70周年及び中小企業団体の
組織に関する法律施行60周年記念式典」を開催

中央会事務局職員

十人十色

38

- ◎事務局次長 橋本 典子

編集 後記



表紙絵

作者：徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹 氏

タイトル：「水瀑－神通滝－」

鮎喰川上流へ入り自然の中を進むと、深い緑と四季折々の渓谷美で知られる
神通渓谷が現れます。車を降りて行くこと 15 分。そこに神通滝が雄大な姿を
現します。30 メートルの落差を持つ神通滝は県下でも有数の滝として名高く、
冬には水瀑となり神々しい姿にかえることがあります。



新年特別企画

令和2年 新春対談

「昨年の経済状況と今年の徳島経済の見通し、
創立65周年を迎える今後の中央会・
中小企業組合のあり方について」

新年明けましておめでとうございます。新年特別企画として、株式会社商工組合中央金庫の一ノ瀬浩道德島支店長と本会の布川徹会長に、昨年の経済状況と今年の徳島経済の見通し、創立65周年を迎える今後の中央会・中小企業組合のあり方について、大いに語って頂きました。

写真右から――

【出席者】

一ノ瀬 浩道 氏 (株)商工組合中央金庫 徳島支店長
布川 徹 氏 徳島県中小企業団体中央会 会長

【司会進行】

藤原 有希 徳島県中小企業団体中央会 主事



☆昨年を振り返って

【司会】

まず昨年を振り返ってお話を頂きたいと思います。海外では先行き不透明感が増し、国内では、働き方改革の推進、消費増税や軽減税率の導入など、中小企業を取り巻く環境は、大きく変化しています。

このような状況の下、お感じになられたことについて布川会長からお願い致します。

【布川会長】

中小企業にとって、年間5日有給休暇取得義

務、残業時間の上限規制といった働き方改革へ対応していくことは厳しいものがあり、大きな問題となっています。しかし、時代の流れからすると、中小企業も対応していかなければなりません。企業が存続できるよう如何に業務改善、生産性向上をしていくかが、これからの大きな課題です。

もう一つは、消費税増税に合わせて実施された軽減税率ですが、消費者側から見ると、食料品に関して、消費税が軽減されるのはプラスですが、食料品を販売・購入している企業にとって、一般税率と軽減税率の二本立ては、非常に煩雑で大変なことになっているようです。簡単

に対応できるような方法を考えて頂きたいと思っています。

しかしダイナミックに変わっていく世の中の流れの中で、中小企業も時代の変化への対応を拒むのではなく、受け入れて行かなければならないと思っています。

【一ノ瀬支店長】

昨年、労働者の視点に立ち「働きやすさ」を実現するため、政府が提唱した「働き方改革」は、企業の労働環境の改善活動、ひいては企業文化や風土も含め変化をもたらす、大きな転機となりました。働き方をしっかり変えて、今後どのように対応していくということは、規模の大小、業種、地域を問わず、日本経済全体にとって、非常に重要になってきます。

また、昨年を振り返りますと、先行き不透明感が更に増した一年であったと思っています。特に、台風15号・19号といった自然災害に見舞われ、幸い徳島経済は、他の地域に比べると影響度合いは軽微に済んだと思いますが、全国的に見ると、長野・千葉・栃木・茨城といった地域が打撃を受け、改めて自然災害の前では無力であることを感じた一年でした。私は、昨年7月まで長野勤務でありましたが、長野県においては、長野県中央会と商工中金が連携し、県内経済の復興支援に向けて全力を注いでいます。改めて中央会の皆様には敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

☆令和2年の徳島経済の見通しについて

【司会】

令和2年の徳島経済の見通しについてお話を頂きたいと思っています。



令和2年の明るい話題としては、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、徳島県内では、オリンピック事前キャンプによる波及効果が見込まれています。

しかしながら、8月末に徳島駅前の「そごう徳島店」が閉店し、中心市街地の空洞化の加速が懸念されます。

これらの状況を踏まえ、令和2年の徳島経済の見通しについて布川会長からお願い致します。

【布川会長】

令和2年の徳島経済にとって、徳島そごうの撤退は非常に大きな問題です。しかしこれは仕方ない事でもあります。

昔は中心部に商業施設、郊外に住宅があり、そして郊外に住んでいる人が中心部に買い物に来ていましたが、今は、郊外に商業施設ができ、郊外で買い物が全部できるようになりました。

徳島そごう閉店後、跡地に百貨店等商業施設の誘致は難しいと思います。しかし、香川県高松市の丸亀町商店街は、三越百貨店の横に商店街があり、商店街の上は住宅となっており、住む場所と商業施設が一体化しているので、相乗効果が出ています。

また、徳島だけでなく日本全国人口減少、少子高齢化の問題があり、特に地方では過疎化が進んでいます。現在は人が少ない山間部等でも最低限のインフラ設備をしていますが、これからはコンパクトシティという考え方もあると思います。

そう考えると、徳島の中心部には人が集まって生活する。更に住居の下に商業施設があるという丸亀商店街を参考に考えるのも良いと思います。なかなか実現することは難しいですが、県、市には是非お願いしたいですね。



また、中小企業は、これから徳島だけでなく、もっと外に目を向けなければならないと思っています。少子高齢化で人口減少の状況で、徳島だけで商売をすれば、どうしても縮小傾向になりますが、今はインターネットという IT ツールがあり、地球の裏側からでも自社のホームページを見て、徳島に居ながら世界中と商売ができる時代になっています。中小企業でも資金がなくても、やり方一つで、地球の裏側と商売ができるような状況になっています。

【一ノ瀬支店長】

徳島そごう閉店の話ですが、にぎわいという点では会長の話の通りだと思います。跡地の施設が商業系又は住居系の施設にするのかについては、行政のリーダーシップに期待するところですが、にぎわいをしっかり継続し、空白期間を作らないようにするのが重要です。

県内の中小企業で元気のある会社は、県外や国外に目を向けているのを感じています。一方、徳島県経済のみを基盤として商売している会社には、一部ではありますが、元気のない会社もいらっしゃるのかな、と感じています。

日銀などの各種統計を見ると、去年は「経済は緩やかに回復基調にある」というフレーズをよく見ましたが、県内中小企業においては実感がなく、令和2年も同様に続く傾向にあると思っています。

そこで、県内の中小企業、組合については、県外や国外に目を向けた活動が今後非常に重要です。

【布川会長】

東京オリンピック・パラリンピックの5年後

には大阪・関西万博の開催を控えており、関西との結びつきが強い徳島においても、インバウンドの増加など経済波及効果が期待できますが、一方でその対応についての課題が顕在化してくると思っています。

【一ノ瀬支店長】

昨年10月の消費税増税後の動きは、気になります。平成26年に消費税が8%に上がった時のような大幅な反動減の声は少ないですが、じわじわと影響があるのを肌で感じています。増税後2か月経って新しい年を迎え、消費の動向は心配であり、注視していくことが必要だと思っています。

☆徳島県中央会創立 65 周年を迎えて

【司会】

令和2年10月には本会が65周年を迎えます。これまで中央会においては、基幹業務として、巡回・相談による組合支援に加えて、BCPなど新たな課題にも、いち早く取り組んでまいりました。

一方、時代の流れの中で、中央会に求められる事項も変化してくると思われます。

今後の10年、20年を見据えて、中央会がどうあるべきか、布川会長から一言お願い致します。

【布川会長】

中央会をみて一番感じることは女性理事が少ないと言うことです。昨年とくしまレディース中央会が設立されましたが、もっと女性が参加できるような組合、中央会でなければいけない



と思っています。徳島は女性経営者の比率が非常に高いですが、組合理事長・理事はまだ少ないと感じています。もっと女性が組合活動できるような土壌が必要で、男性には無い女性の感性をもっと活かせるような組合、中央会にしていくことが重要だと思っています。

また、中小企業経営者は、組合や中央会とは何か、組合になぜ加入しなければならないか、中央会が何をしているのかを分かっていない人がまだまだ多いと感じています。多くの中小企業経営者は目先の課題だけを見ており、先々のことまで考える余裕がないのかも分かりませんが、中央会としては、中小企業にとっての先々を見据えた支援、事業活動等のPRが必要だと思います。

更に、事業承継は、中小企業にとって大きな問題となっています。現役経営者が、自虐的な話ばかりすると、子供達が親の後を継がないと思います。子供達が徳島の良い所を聞いて、徳島に戻りたい、徳島で仕事をしたい、親の仕事が格好良い、親の仕事を継いでいきたいと思うように、もっと将来の夢を語っていかねばならないと思っています。

[司会]

続きまして、65周年を迎える中央会に期待することについて、一ノ瀬支店長から一言お願い致します。

[一ノ瀬支店長]

令和2年10月に65周年を迎えられることは、大変喜ばしく思います。心よりお祝い申し上げます。徳島県は各組合の活動の統制がとられており、組合の存在意義及び組合の価値の高い地域であると感じています。これもひとえに布川会長をはじめとして中央会の皆様の歴史とご尽力の賜物で、深く敬意を表します。

そのような中、当金庫徳島支店も昭和22年に出張所を開設してから約70年経過し、中央会とは歴史を共に歩んできました。中央会と商工中金は、“車の両輪”と考えており、今後も共に同じスピードで、同じ方向を向いて、一層連携しながら、中小企業の価値向上及び一層の組織化に向けて、共に行動していきたいと思っています。

また、令和2年は今まで以上に商工中金と中央会が共に歩調を合わせ、中小企業や組合が抱

える経営課題（人材育成・確保、BCP、事業承継）の解決に向けて、積極的に取り組んでいきます。

☆中小企業組合のあり方

[司会]

現在、中小企業を取り巻く経営環境は、様々な課題が山積している状況にあります。

このような中で、組合においても、組合員の減少、組合員の業況不振などの問題に直面しています。

そこで、これからの中小企業組合の役割や展望といった「中小企業組合のあり方」について、お話頂きたいと思います。布川会長からお願い致します。

[布川会長]

日本の企業の99.7%は中小企業で、一つ一つの企業は発言力や影響力はありませんが、団結することによって、大きなパワーが生まれ、組合をつくり団結することで発言力が生まれるので、組合は重要なものとなっています。中央会は組合の意見をとりまとめて、国に対して提言・要望していくことができます。組合の存在意義は、団結・数の力にあると思っています。

[一ノ瀬支店長]

時代に合わせて、組合の役割も変わっていきますので、「団結と連携」をキーワードにこれからも良い方向に変わり続けていくことが必要です。

商工中金への出資組合は、30年前の約28,000組合から平成30年3月には21,000組合へと約7,000組合減少しています。そのような中で組合員の意見を取り入れ組合の役割を変えながら、存在意義を高めている組合が多数存在します。価値向上に向けて尽力している組合同士が連携しながら、横断的な活動をしていくことが、これからの組合のあり方として、非常に重要であると思っています。

人材育成・確保、BCP、事業承継といった経営課題については、組合が果たすべき役割は大きいと思っています。そのような中、商工中金も微力ながら中央会と連携しながら、各組合と県内経済活性化に向けて活動していきます。

【布川会長】

組合員が組合に加入していてもメリットがないとよく言われますが、組合に加入している以上は、もっと関わり合いを持って、様々な事業に積極的に参加しないとメリットはないと思います。

【一ノ瀬支店長】

組合からの組合員への時宜を得た情報の発信は重要で、その情報を組合内で共有することで意思統一が図られ、組合員同士の団結にも繋がっていくと思います。

【布川会長】

組合は、組合員が困っていることを細かくリサーチし、解決できるような事業を考え、新規事業に取り組んでいかなければならないと思います。

☆令和2年の目標について

【司会】

最後になりますが、令和2年の干支は、子年です。子年は、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になると言われています。

そこで、令和2年のお二人の目標について、お話を聞きたいと思います。布川会長からお願い致します。

【布川会長】

子年は、干支の始まりの年回りです。新しい時代がくるということで、AI・IT技術を活かした新しい事業への挑戦の年としたいと思っています。

何か良いことを見つけるとともに、オリンピック効果もありますので、経済はきっと良くなると思っています。いや必ず今年は良い年になるよう頑張っていきます。

【一ノ瀬支店長】

令和2年は、オリンピックの年なので、必ず盛り上がると思っています。景気の“気”は、気持ちの“気”とよく言われますが、イベントがあると日本国中が盛り上がりますので、令和2年は明るい年になれば良いと強く願っています。

気持ちが上がってくれば、消費が動いていくので、様々な活性化に結びつくと思っています。

商工中金は、「経営支援総合金融サービス業」を掲げ、県内の組合、中小企業を総合的に支援していくことを目標としており、中央会と連携しながら、組合・中小企業の企業価値の向上や高度化に向けたお手伝いをしていきます。

【司会】

本日は大変お忙しい中、貴重なご意見をいただきありがとうございました。



特集

1

令和元年度 徳島県の労働事情

～中小企業労働事情実態調査報告書(抜粋)～

内閣府が発表した月例経済報告によりますと、2019年の我が国経済の基調判断は政府による積極的な経済政策の効果もあり、緩やかな回復基調が続いていると言われております。しかし、予測不能なトランプ政権の通商・外交政策による貿易摩擦、英国のEU離脱の行方など海外情勢の不安定な状況に加えて、今年10月に10%へ引き上げられた消費税率の影響が懸念されるなど、様々な要因による国内経済への悪影響が強く危惧される状態であります。

また昨今日本各地で相次いで発生している自然災害による日本経済に及ぼす影響は多岐にわたり、今後の企業の生産活動や消費マインドの冷え込みなどの影響が憂慮されます。

一方、徳島県内の景況に目を転じますと、景気は回復基調が続いていると言われておりますが、依然続く消費動向の低調な推移に加え、原材料価格・燃料価格の高騰により企業収益が圧迫され、景気のもたつきが鮮明になっております。さらに人員の不足感は既住ピークの水準で推移しており、雇用情勢回復による労働力不足の逼迫、また人口減少と少子高齢化による労働人口の減少が今後の課題として新たな経済成長に向けた取り組みが不可欠であります。

こうした中、「働き方改革」による仕事と生活の調和の推進、有期労働契約から無期契約への転換など労働事情を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。中小企業にとって重要な経営資源である人材を確保するためには、雇用環境の整備など従業員の多様な働き方への対応が各企業に求められます。

本調査では県内の中小企業を対象として経営状況や、週所定労働時間をはじめとする労働時間、新規学卒者の初任給、賃金改定の実施状況に加え、今年は新たに中途採用の実施状況、年次有給休暇の取得（付与）義務についての調査を行い、結果を取りまとめました。

〔I〕 調査のあらまし

1. 目 的

本調査は、徳島県内の中小企業における労働事情を的確に把握し、労働環境の整備・改善の指標となることを目的として昭和39年より毎年全国一斉に実施しており、本年度も調査を実施したものである。

2. 調査の方法

当中央会が調査対象事業所（600事業所）を任意に抽出し、調査票を郵送にて送付・調査回収したものを全国中小企業団体中央会において一括集計したものである。

3. 調査対象並びに事業所数

調査対象事業所は従業員300人以下の中小企業600事業所で次の業種を対象とし、製造業57.0%、（342事業所）非製造業43.0%（258事業所）の割合で調査したものである。

製 造 業	非 製 造 業
1. 食料品製造業	1. 運輸業
2. 繊維工業	2. 建設業

3. 木材・木製品製造業
4. 印刷・同関連業
5. 窯業・土石製品製造業
6. 化学工業
7. 金属・同製品製造業
8. 機械器具製造業
9. その他の製造業

- a. 総合工事業
- b. 職別工事業（設備工事業を除く）
- c. 設備工事業
3. 卸売業
4. 小売業
5. サービス業
 - a. 対事業所サービス業
 - b. 対個人サービス業

4. 調査時点 令和元年7月1日現在

〔Ⅱ〕 回答事業所の概要

1. 調査回収の状況

今回調査の回答事業所は、226 事業所であり、産業別にみると、製造業が 125 事業所で従業員数は 4,485 人、非製造業が 101 事業所で従業員数は 3,798 人となっている。

これを従業員規模別でみると「10～29 人」規模が 77 事業所で 34.1%と最も多く、続いて「30～99 人」規模が 67 事業所で 29.6%、「1～9 人」規模が 62 事業所で 27.4%、「100～300 人」規模が 20 事業所で 8.8%となっている。

2. 労働組合の有無

労働組合の状況についてみると、回答数 226 事業所のうち、労働組合が企業別に組織されている事業所、並びに従業員が何らかの労働組合に加入していると回答したものが 17 事業所で、組織率は 7.5%であった。（前年 13 事業所、組織率 6.3%）

これを、従業員の規模別にみると「100～300 人」規模 20 事業所のうち 6 事業所（組織率 30.0%）に労働組合があり、「30～99 人」規模では 67 事業所中 4 事業所（組織率 6.0%）にあるという回答を得た。労働組合がある 17 事業所のうち 10 事業所（組織率 58.8%）が 30 人以上規模の事業所であるという結果となった。

また、業種別に見ると、製造業では 12 事業所（組織率 9.6%）、非製造業では 5 事業所（組織率 5.0%）の事業所に労働組合があるとの回答であった。

3. 雇用形態別構成比

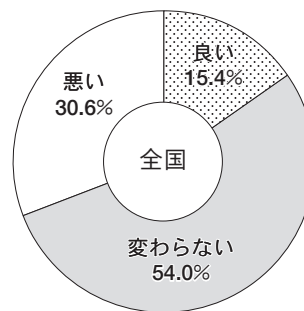
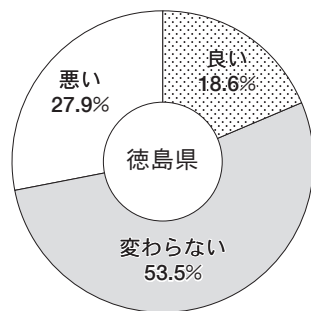
雇用形態を「正社員」、「パートタイマー」、「派遣」、「嘱託・契約社員」、「その他」の 5 つの形態に分類して調査を行った。結果、従業員の雇用形態は「正社員」は 81.0%（対前年比 0.9%増）、「パートタイマー」は 12.2%（対前年比 0.8%増）、「派遣」は 1.6%（対前年比 0.5%増）、「嘱託・契約社員」は 3.4%（対前年比 1.4%減）、「その他」は 1.8%（対前年比 0.8%減）となっている。

男女比率で見ると、正社員雇用の「男性」は 89.4%（対前年比 2.3%増）、「女性」は 63.3%（対前年比 0.4%減）という結果が出た。前回の調査時に比べ「男性」正社員の割合が増加傾向にあるものの、「女性」は僅かに減少した。

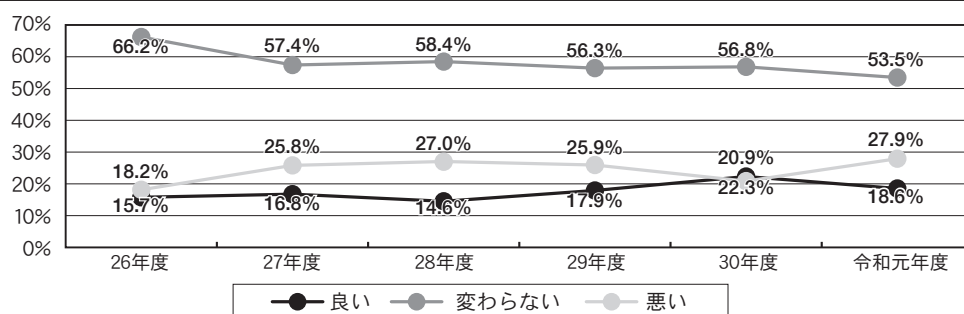
〔Ⅲ〕 調査結果の概要

1. 経営状況

- (1) 経営状況は 1 年前と比べてどう思うかについて回答を求めたものであり、徳島県全体では「良い」と回答した事業所は 18.6%（対前年比－3.7%）、「変わらない」は 53.5%（対前年比－3.3%）、「悪い」は 27.9%（対前年比－5.0%）となっている。平成 26 年度からの全体の推移を見ると、「良い」の回答が減少傾向にあり、厳しい状況が窺える結果となった。



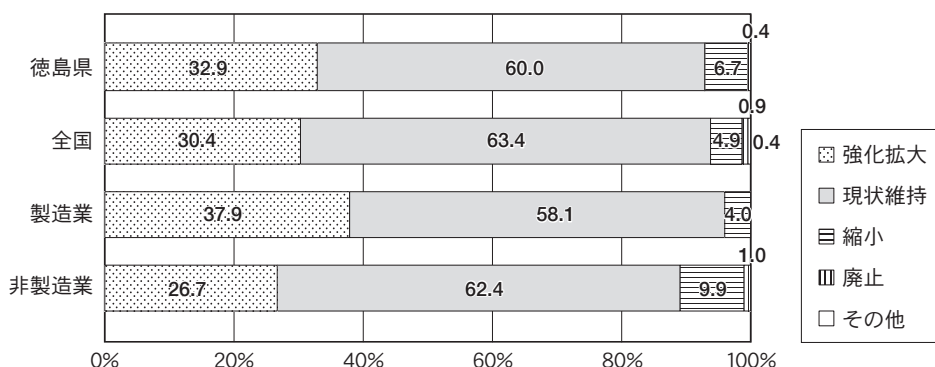
<経営状況>



<徳島県の経営状況の推移>

(2) 主要事業の今後の方針

主要事業の今後の方針については、回答数 225 企業のうち「現状維持」が全体の 60.0%（昨年 60.5%）と半数以上を占めており、次いで「強化拡大」が 32.9%（昨年 36.6%）、「縮小」が 6.7%（昨年 2.9%）、「廃止」の回答は 0.4%（昨年なし）であった。今年も「現状維持」の回答が多く、慎重な経営が続く中、平成 26 年度以降の全体の推移からは、「強化拡大」が増加傾向にあり、積極的な事業展開を取る企業が増加している。



<主要事業の今後の方針>

(3) 経営上の障害

中小企業における経営上の障害について 12 項目を列举し、その中から 3 項目以内複数回答を求めた。

徳島県全体では「人材不足（質の不足）」53.3%（前年 57.6%）との回答が最も多く、「労働力不足（量の不足）」34.2%（前年 36.5%）、「販売不振・受注の減少」28.4%（前年 21.7%）が経営上の障害として上位にあげられた。

(4) 経営上の強み

中小企業における経営上の強みについて 12 項目を列举し、3 項目以内複数回答を求めた。

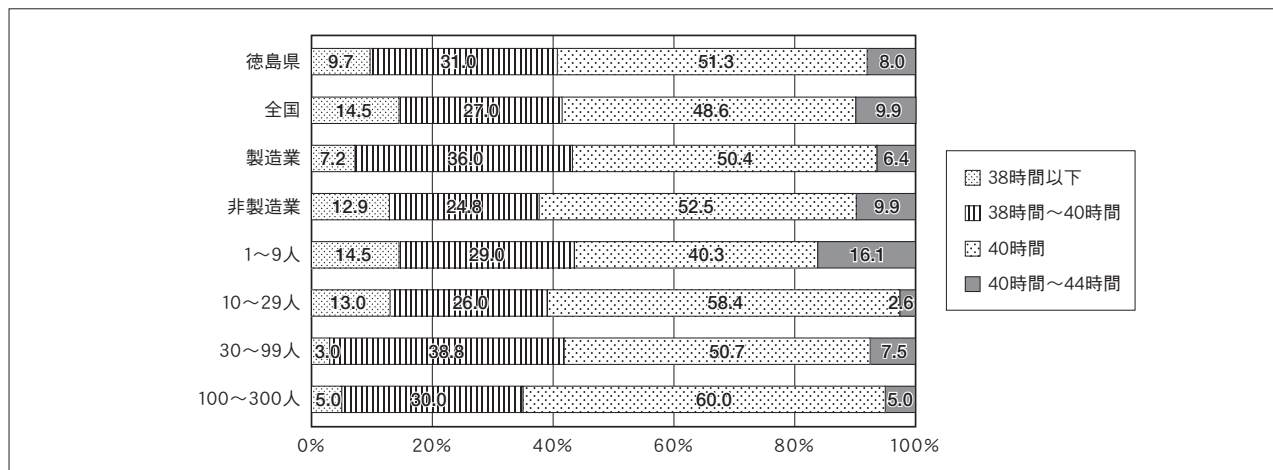
最も多かった回答が「製品の品質・精度の高さ」で 28.9%（前年 25.0%）、続いて「製品・サービスの独自性」が 26.7%（前年 29.4%）、「技術力・製品開発力」26.2%（前年 27.0%）の順となっている。

2. 従業員の労働時間

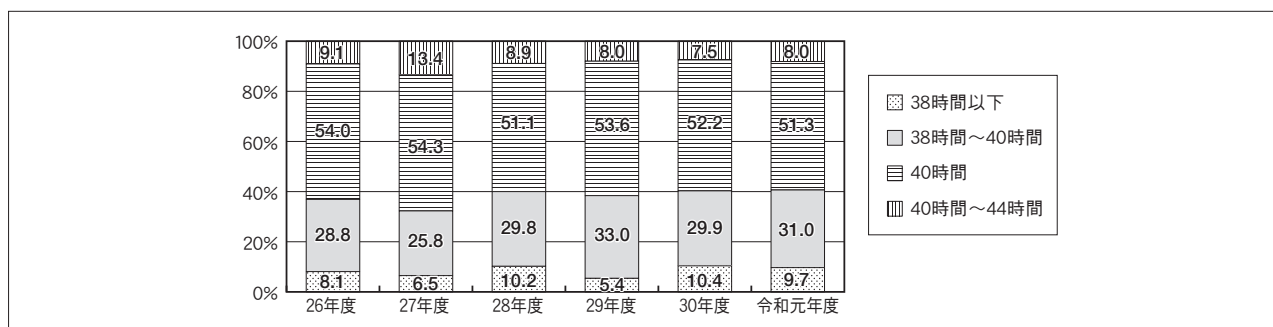
(1) 週所定労働時間

従業員の週所定労働時間は、徳島県全体では昨年同様「40 時間」と回答した事業所が最も多く 51.3%（全国平均 48.6%）であった。次いで「38～40 時間」の 31.0%（全国平均 27.0%）であった。「1～9 人」の事業所で「週 40 時間」を超える割合が高い。

過去 5 年間の推移で見ると、「週 40 時間」を超える事業所の割合は減少傾向にある。



<週所定労働時間>

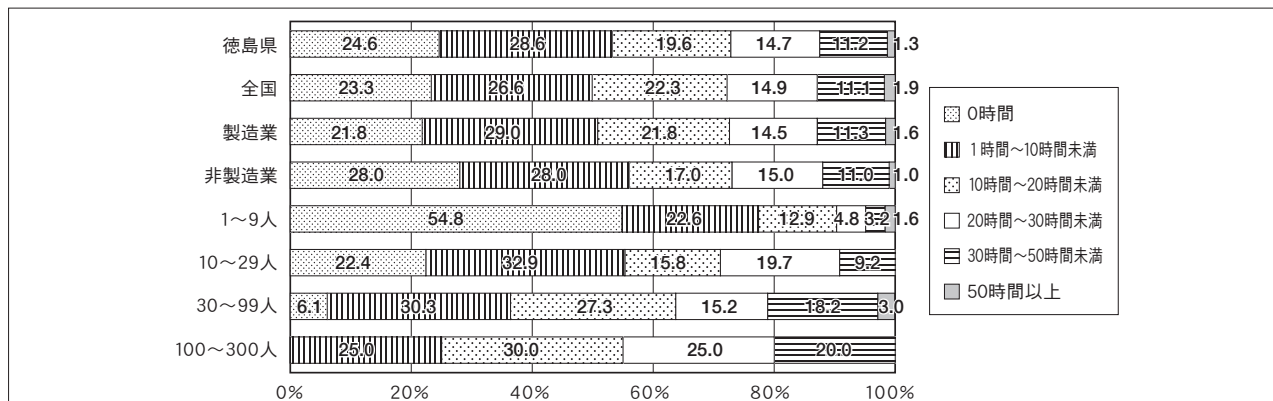


<徳島県の週所定労働時間の推移>

(2) 月平均残業時間

従業員 1 人当たりの月平均残業時間については、徳島県では 11.98 時間、全国平均 12.49 時間であり、前年度より減少となった。（前年 徳島県 13.38 時間）。規模別で見ると、「1～9 人」の事業所で「残業なし」と回答した割合が半数近くを占めた。

過去 5 年間の推移で見ると、残業がないと回答した事業所は減少傾向にあったが、今年度は微増した。しかし、依然として長時間労働が問題となっており、長時間労働の削減は喫緊の課題である。



<月平均残業時間>

(3) 令和元年の従業員 1 人当たりの年次有給休暇の平均付与日数・取得日数

令和元年の徳島県の平均年次有給休暇の付与日数は 15.57 日（全国平均 15.39 日）であり、これに対して、平均取得日数は 7.66 日（全国平均 7.61 日）、平均取得率は 53.38%（全国平均 52.75%）という結果となった。

3. 新規学卒者の充足率・初任給

平成 31 年 3 月卒の新規学卒者の採用計画に対し、計画通り採用できた事業所の割合（採用充足率）をみると、「高校卒」72.3%（昨年 73.5%）、「専門学校卒」77.8%（昨年 83.3%）、「短大卒（含高専）」66.7%（昨年 100.0%）、「大学卒」79.0%（昨年 69.4%）の充足率となっている。

全国的な労働雇用環境の改善を背景に、県内企業が新規学卒者の採用に苦戦している状況が伺える。

(1) 初任給（平成 31 年 3 月卒）

徳島県における新規学卒者の初任給は、次表のような回答結果となっている。

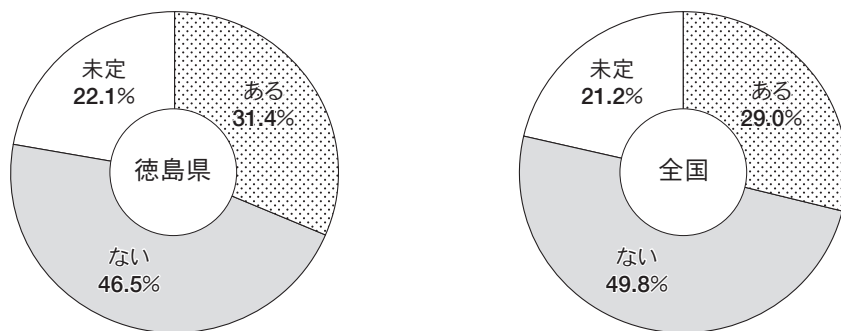
		初 任 給				参 考	
		単純平均	(前年比)	加重平均	(前年比)	前年度(単)	前年度(加)
高 校 卒	技 術 系	162,654	101.9	163,353	103.4	159,558	157,875
	事 務 系	157,633	103.8	157,933	103.2	151,850	152,956
専門学校卒	技 術 系	179,370	113.6	179,370	110.3	157,820	162,547
	事 務 系	180,000	99.1	180,000	99.1	181,500	181,500
短 大 卒 (高専含)	技 術 系	179,800	0	177,500	0	—	—
	事 務 系	—	—	—	—	176,731	176,731
大 学 卒	技 術 系	211,289	109.8	210,673	106.4	192,390	197,938
	事 務 系	190,682	104.5	190,538	104.0	182,443	183,054

＜新規学卒者の初任給＞

(2) 新規学卒者の採用

令和 2 年 3 月の新規学卒者の採用計画で「採用計画がある」と回答した事業所は 31.4%（前年 30.4%）、「ない」が 46.5%（前年 45.6%）、「未定」が 22.1%（前年 24.0%）となっている。

徳島県では「採用計画がある」と回答した中小企業が微増したが、「採用計画がない」企業は 5 割近くであり、新規学卒者の就職環境は依然として厳しい状況にあると言える。

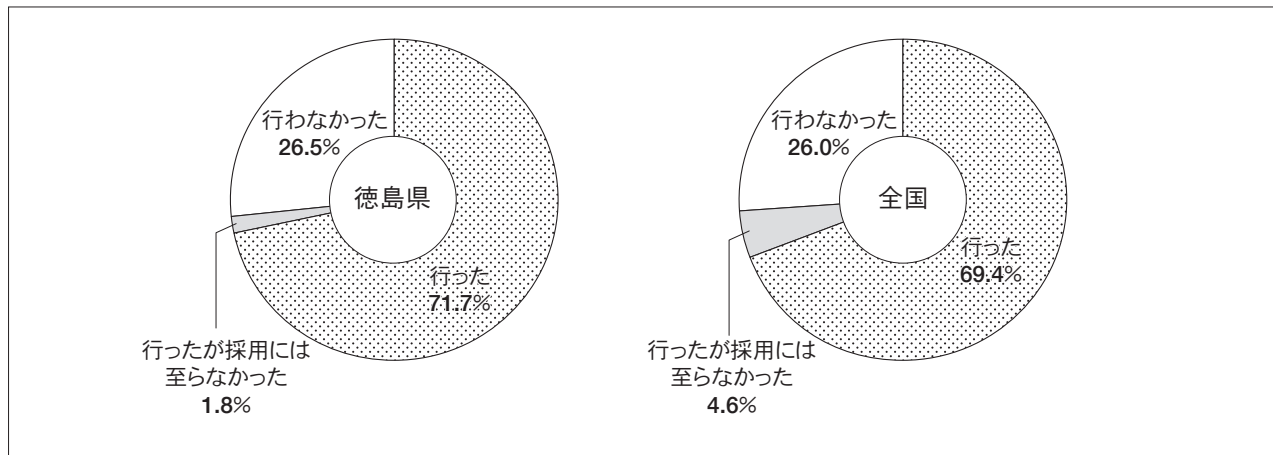


＜新規学卒者採用計画＞

4. 中途採用について

(1) 中途採用の有無について

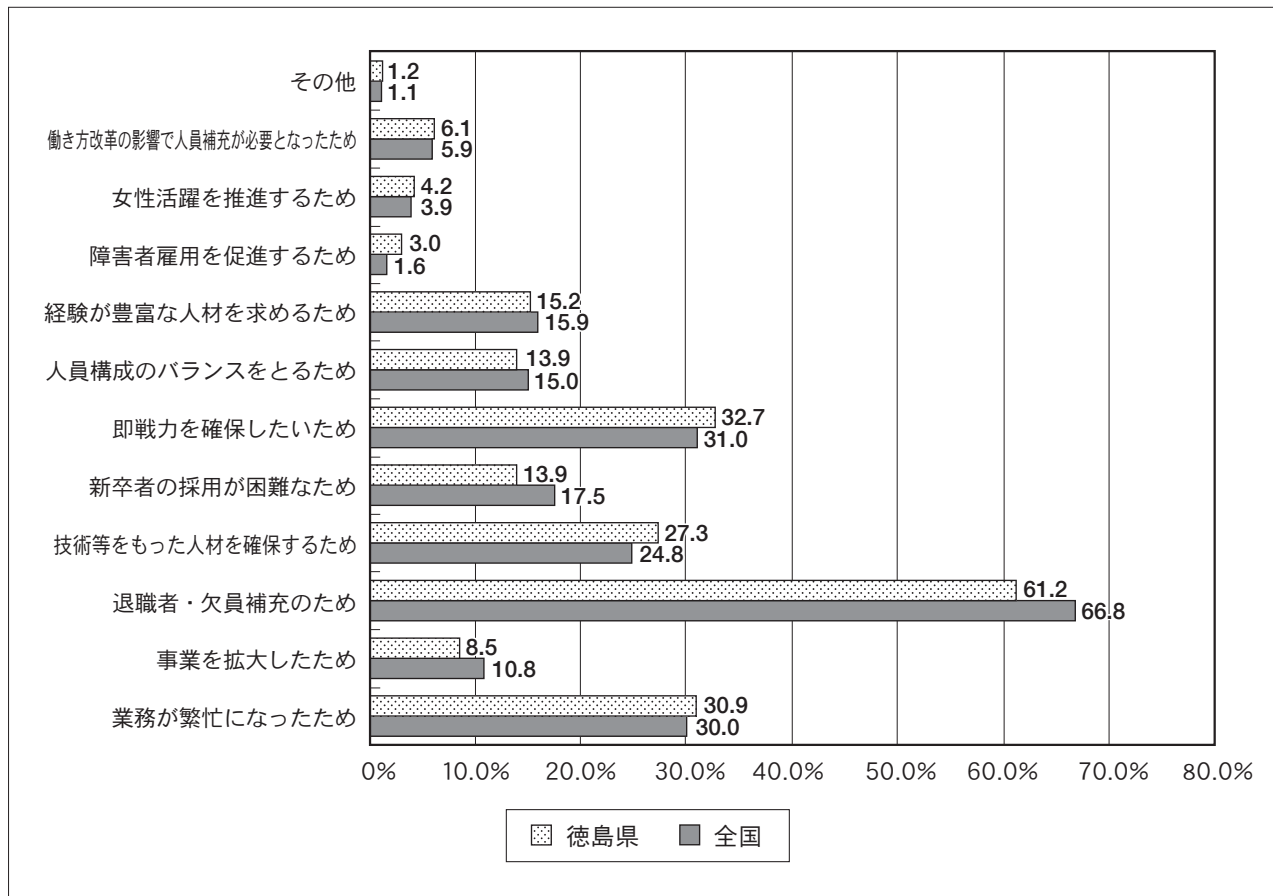
過去3年間に中途採用を行ったか（新規学卒者の採用を除く）回答を求めたところ、徳島県、全国平均ともに「行った」との回答が7割を占める結果となった。



<中途採用の有無>

(2) 中途採用（活動）を実施した理由

中途採用を実施した理由について回答を求めたところ、徳島県、全国平均ともに「退職者・欠員補充のため」が6割以上を占める結果となった。続いて、「即戦力を確保したいため」、「業務が繁忙になったため」の順となった。また「即戦力を確保したいため」・「技術等をもった人材を確保するため」を合わせると6割近くとなり、中小企業の人手・人材不足が窺える。（複数回答）



<中途採用（活動）を実施した理由>

(3) 採用した職種について

(1)において、中途採用（活動）を行った中小企業で採用した職種について回答を求めたところ、「現業・生産職」58.4%（全国平均 54.4%）次いで「事務職」25.9%（全国平均 24.0%）、「技術・研究職」20.5%（全国平均 27.8%）という結果となった。（複数回答）

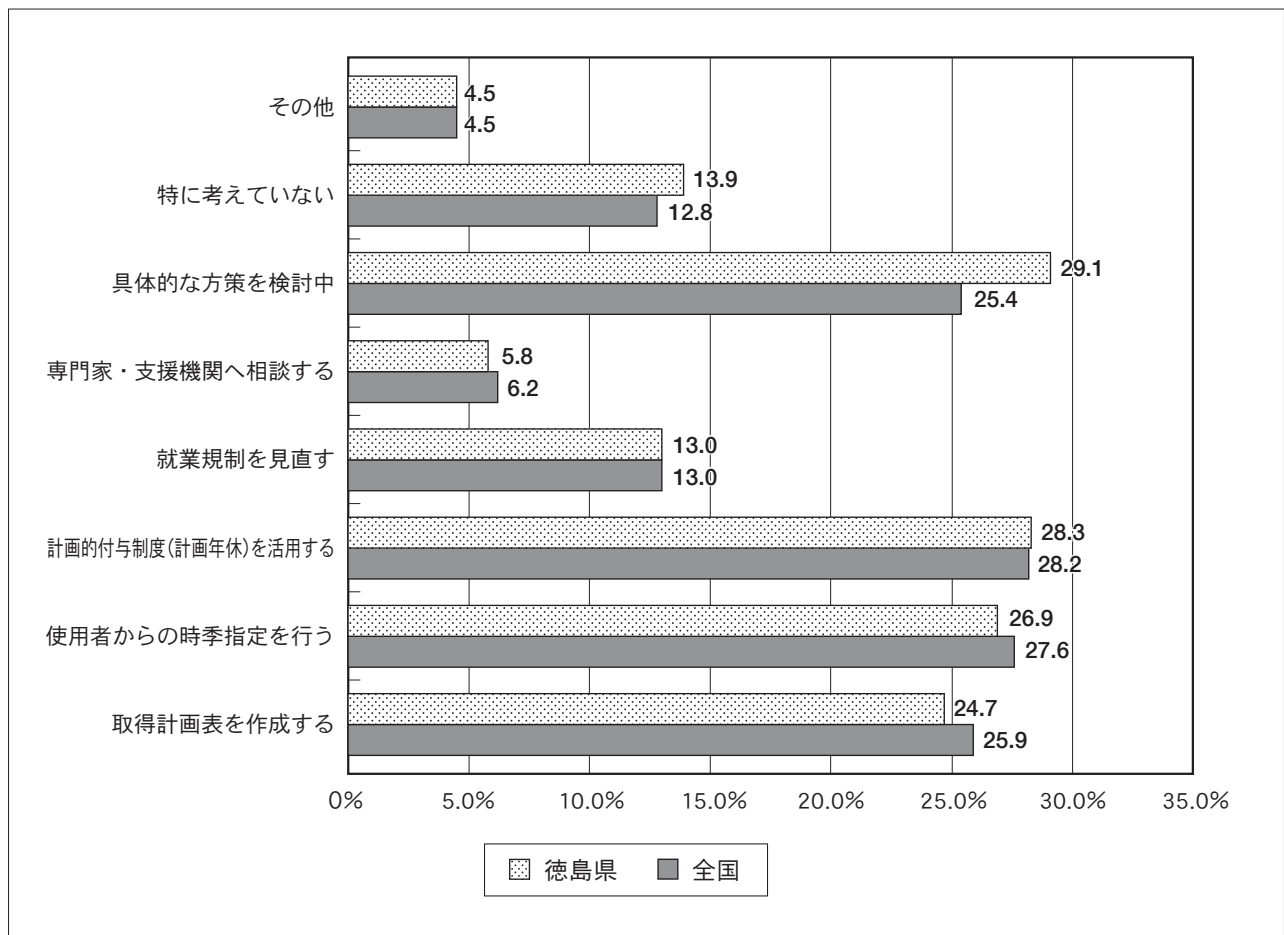
5. 年 5 日の年次有給休暇の取得（付与）義務について

(1) 「年 5 日の年次有給休暇の取得（付与）義務」の認知状況について

2019 年 4 月から、（規模を問わず）すべての企業において、年 10 日以上の子次有給休暇が付与される労働者に対して、年次有給休暇の日数のうち年 5 日については、使用者が時季指定して取得させることが必要になったことを知っていたとの回答が 88.5%（全国平均 86.4%）、知らなかったとの回答が 11.5%（全国平均 13.6%）であった。

(2) 年次有給休暇の取得（付与）義務への対応について

標記の件について実施している（今後実施していこうとする）方策について回答を求めたところ、「具体的な方策を検討中」が 29.1%と最も多く、次いで「計画的付与制度を活用する」が 28.3%、「使用者からの時季指定を行う」26.9%の順となっている。（複数回答）



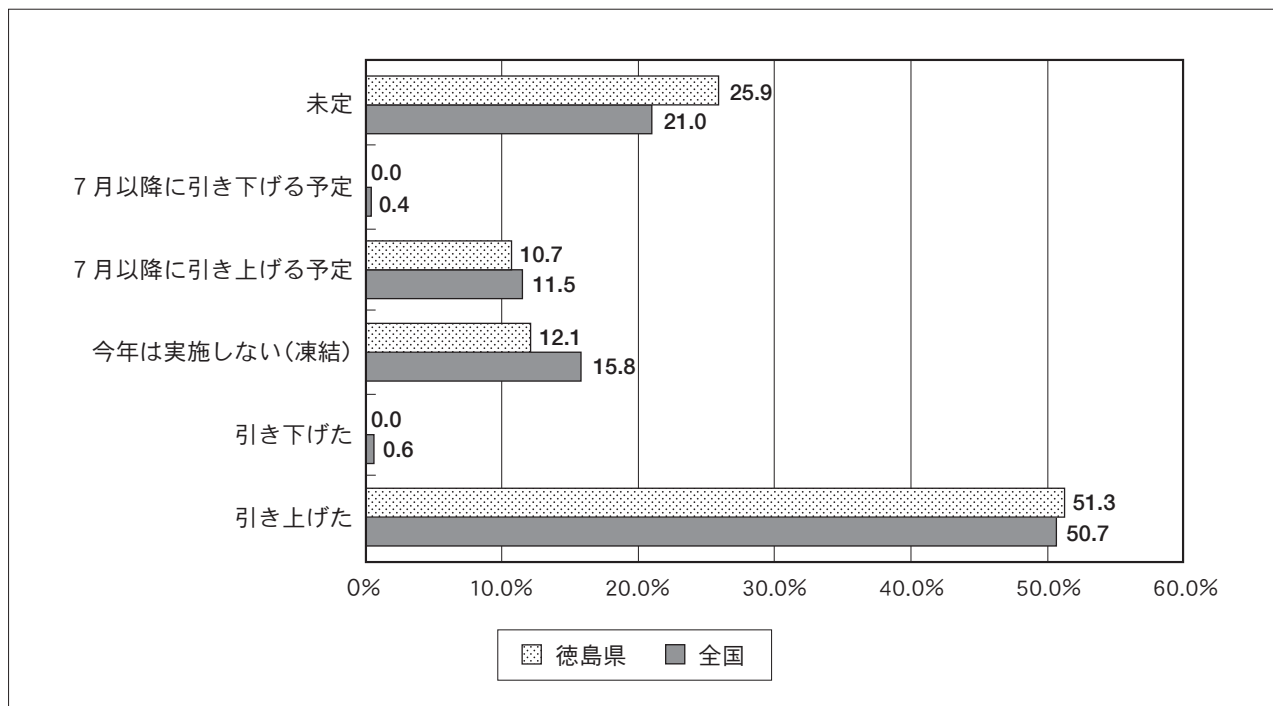
＜年次有給休暇の取得（付与）義務への対応＞

6. 賃金改定状況

(1) 賃金改定の実施状況

平成 31 年 1 月 1 日から調査時点（7 月 1 日）までの賃金改定状況は、「引き上げた」51.3%（全国平均 50.7%）、「7 月以降引き上げる予定」10.7%（全国平均 11.5%）をあわせて 62.0%（全国平均 62.2%）となった。徳島県でも 10 月 1 日に最低賃金が 793 円に引き上げられる事が決定したが、昨年より「引き上げた」或いは「引き上げる予定」と回答した事業所は微減した。

逆に、「引き下げた」・「7月以降引き下げる予定」の事業所はなかった。また、「未定」が25.9%（全国平均21.0%）、「今年は実施しない（凍結）」は12.1%（全国平均15.8%）といった回答結果となった。



＜賃金改定の実施状況＞

(2) 賃金改定の内容

(1)において、賃金の引き上げを実施或いは7月以降の引き上げを実施予定としている中小企業に対して賃金の改定内容について調査したところ、最も回答が多かったのは「定期昇給」61.6%（全国平均56.3%）、続いて「基本給の引き上げ（定期昇給制度のない事業所）」が27.5%（全国平均33.9%）、「ベースアップ」が17.4%（全国平均16.6%）という結果になった。（複数回答）

また、徳島県内において7月までに賃金改定を行った事業所の賃上げ状況は、全産業で労働者1人当たりの単純平均額は5,674円（平均昇給率2.45%）、加重平均は5,038円（平均昇給率2.11%）となっている。

特集 2

徳島県企業 BCP 認定制度 認定証交付式・ BCPトップセミナーを開催

徳島県と大会主催で、令和元年11月27日(水)徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、「徳島県企業BCP認定制度認定証交付式及びBCPトップセミナー」を開催しました。

徳島県企業BCP認定制度認定証交付式においては、2企業・1団体(株式会社マルハ物産、株式会社日産サティオ徳島、徳島県商工会連合会)が徳島県知事の認定を受け、各社それぞれから決意の一言が述べられました。

認定証交付式後に開催したBCPトップセミナーにて、株式会社熊防メタル総務部の松岡晶彦氏を講師に迎え、「熊本地震を経験してのBCPの策定」をテーマに講演して頂きましたので、その一部を紹介します。

株式会社熊防メタルは、昭和8年熊本県熊本市で創業、国内最大級の大型めっきラインと独自開発された表面処理技術が強みとし、顧客の様々なニーズに対応するとともに、常に新たなものづくりへの挑戦を続けている企業です。

熊本地震を体験後、本格的なBCPを策定され、その後も「実効性」を重視したBCPの改善、訓練を重ねられています。その取り組みは、2017年に「BCAOアワード」熊本地震「震災対応特別賞」を受賞されるなど高い評価を受け、現在は各地での講演のほか、県内外から工場見学を受け入れるなどご活躍されています。



写真左から (株)マルハ物産 大鋸経営管理部長、本会 蔭山専務理事、春木徳島県商工労働観光部副部長、(株)日産サティオ 徳島 藤村代表取締役社長、徳島県商工会連合会 岡本会長

☆熊本地震の被害状況

2016年4月16日の夜中の1時25分に震度7の本震が発生した。前震の後片付けをしていた時に、揺れが来たので、前震の後より酷い状況になった。

地震の特徴としては、観測史上初が二つあり、一つは、震度7の地震が立て続けに2回発生したこと、もう一つは、一連の地震で震度6弱以上の地震が7回発生したことであった。余震の数は多かったが、津波は発生しなかった。

会社の被害としては、生産を動かすラインのクレーンが落下。もし、昼間に発生していれば死者が出たかもしれない。天井、壁が剥がれ、シャッターや排気ダクトが壊れ、窓や扉が外れ、

事務所内はロッカーが倒れるなど散乱しており、日中地震の発生の際には、机の下に隠れるのが正解と思われる。

前震直後の見解では週明けには復旧し再開できそうであったが、その後の本震によって約1ヶ月間の復旧時間が必要になった。

東日本大震災後、BCPの策定には取り組んでいたが、会社の体制が、全然危機感が足りず、江戸時代初期に似たような地震があったものの、想定が甘くほぼ機能しなかった。また、南海トラフ巨大地震も津波は来ないだろうという思い込みがあり、当時は体制も担当者一人で兼務の傍ら時間がある時に作業をしていた。復旧は、実質、臨機応変で何とか乗り切った形となり、被災してようやくBCPの重大さに気づいた。

☆各部門の復旧対応状況

【製造部門】 めっきの装置は1点物が多く、故障は施工業者に修理してもらう以外なく、県外の施工業者には会社の応接室に泊まり込みで復旧してもらった。また、めっき槽が本震で移動したことにより、バルブや配管が折れてしまい、めっき槽の液が排水施設に流れてしまった。クレーンの落下は、当社は事故ではなく被災と判断していたが、労働基準監督署の判断は事故扱いとなり、改良を含めた事故報告書の提出が求められたこともあって、よく似た設備のある事業者があれば注意して欲しい。

【技術部門】 ラインの処理液の一部が排水ピットに流れ込んでしまったので、産廃業者が汲み上げるのにかなりの日数を要した。電子系の分析機器は倒れた位で問題なかったが、ガラス機器は全損。特注品が多く、手配に時間がかかった。製造ラインが復旧しても、めっき液の分析ができなければ稼働できないので、復旧に間に合わせるよう業者に対応してもらった。

【営業部門】 自社でしかできない処理装置の復旧を最優先にし、その他の汎用品の処理は同業者への外注となった。その際、福岡市内の工業組合の同業者に外注したが、事前に品質の協定を結んでいなかったため、中にはNGになる製品もあった。この出来事により九州内の同業者と連携を結ぶ良いきっかけになった。

【建物】 本社工場は東日本大震災後に一部補強を行っていたので、大きな損傷はなかったが、事務所は大規模半壊で使用不可になった。



☆熊本地震の反省

被災前にしっかりとしたBCPを策定し、訓練を行っていたら、間違いなくもっと早く復旧できた。臨機応変で乗り切れたのは、偶然が重なり本当に「たまたま」であった。同業者やお客

様からの支援物資は、備蓄品が少ししかなかったため非常に助かった。当社では、労働災害を減らすため、リスクアセスメントにいち早く取り組んでいたが、会社のリスクを減らすBCPの重要性に気づくのが遅かったと反省している。

現在、当社では、BCPの策定と訓練は企業として顧客と従業員の為にやるべき事と認識している。南海トラフ巨大地震により甚大な被害が発生する可能性が高いことから、本格的なBCPの策定が必要と考えている。

南海トラフ巨大地震が発生すると、地震発生から20年間の経済的な被害が最悪1,410兆円に達するという推計が出ている。これは、直接被害だけでなく、交通インフラが寸断されて工場などが長期間止まり、国民所得が減少するなどの損害額を推計したものとなっている。このような損害額を見るとBCPは大事で、直接的な被害はなくても、間接的な被害を受けて、倒産する企業が発生してしまうように思われる。

☆南海トラフ巨大地震の懸念

南海トラフ巨大地震では、熊本は震度5強と予想されているが、立て続けに震度7が発生した後なので、本当に5強であるのかと心配である。熊本地震でダメージを受けた建物の耐震は、事務所は済んでいるが、工場は広くて予算がかなりかかるため未実施となっている。南海トラフ巨大地震クラスになると、少なくとも1週間は食料が買えない状況になり得るので、備蓄品を用意しないとかなり大変に思われる。いくら自社が大丈夫でも、仕入れができないと生産はできない。また納入先のお客様の安否も心配になるので、最重要顧客・仕入先にはBCPでしっかり対策が行われているのか確認する必要がある。

加えて、最近、大手企業からBCP策定のアンケートが非常に多くなっており、近い将来日本のものづくり産業は、BCPという災害対策が必須になるのではないかと予想される。さらに、二次災害による経済の影響としては、現在は原発が稼働していないから大丈夫かもしれないが、原発が再稼働して、また想定外の事故が起きると大変な事態になる。



講師 (株)熊防メタル
松岡 晶彦氏

☆ BCP 策定のポイント

当社のBCPの目的は、「お客様の事業に支障がないよう、継続的にサービスを提供する」「従業員の雇用及び家族の生活を守る」「地域との共存共栄を図る」としている。

また、BCPの発動条件は、環境災害（地震、台風）としている。大きな川が幸い近くにないため、洪水の可能性は低いが、近年のゲリラ豪雨の際には、水の引く量が追いつかず、事務所内が浸水しかけたため、土嚢を準備した。

最近では情報セキュリティが盗まれるサイバー犯罪が熊本でも増えており、地元の警察署と情報共有の話し合いを行った。当社の表面処理技術が、航空宇宙関連で人工衛星の部品等も手掛けているため、軍事転用やテロにも使われる可能性があるとのことで、スパイ活動にも気をつけて欲しいと対策を求められた。

BCPにおける中核事業は、大事である。経営者が中核事業をビシッと決めて欲しい。そこをハッキリさせないと担当者やメンバーはとも動きづらい。自社でしかできない生産ラインの売上は、あまり高くないが、代替生産ができないと、取引先に迷惑を掛けるため、売上の高い生産ラインを含めて、中核事業とした。

BCP策定チームの選抜は、策定に一番大事なポイントと思われる。各部門を把握したプロフェッショナルを集めるのが理想である。各部門の上司が忙しい場合は、ナンバー2の社員なら良いと思われるが、あまり下になり過ぎると決定力が欠けてしまうため、メンバーは部門の決断が出来る方が一番良いと思われる。

BCP策定の鍵は、少なからず反対する勢力がいるため、経営者サイドは策定する強い意思を社内に周知させることが必要である。

また、時間・メンバー・予算の確保が、必要になってくるが、時間は融通を利かせ、メンバーは経営者が任命するが、予算はそこまで沢山かからない。

担当者サイドは、兼務の合間に時間を作る習慣をつける必要がある。自社のみで策定する場合は、担当者が忙しいと後回しになりやすい。このため、コンサルタントが来てくれると宿題が出るので策定しやすい。

防災知識を習得し、防災士の資格取得後に策定すると、より実効的なBCP策定ができると思われる。また、経営者と担当者がミーティン

グを行い、問題点を解決していく体制が必要である。

BCP策定の難易度は、確かにゼロから自力で策定するのは大変だと思われる。しかし今は大体の県で策定の支援が行われている。コンサルタント費用までも負担してくれるので是非とも活用すべきで、企業側のデメリットは特にない。まだ取り組んでいない事業者は、是非ともBCPの策定に頑張ってもらいたい。



☆ 訓練及び取り組みの紹介

①簡易トイレの設置訓練

発災直後、水や電気も使えない状況である。復旧作業にトイレ問題は不可欠で、会社でも簡易トイレを備蓄しておくべきである。

またマンションに住んでいる方には、トイレは死活問題で、屋上の貯水タンクが破損すると、直るまでかなりの期間がかかるので簡易トイレはとても重要である。

②訓練：備蓄品の試食会

熊本地震の時は、全国から支援物資が大量に届き、意外と備蓄食料を食べた人は少なかったため実施した。

「アルファ米」は熱湯15分必要であるが、「リゾッタ」は熱湯3分で、また最悪そのままでも食べられ、味の種類が豊富となっている。訓練などで食べ比べをしてみるのが良いと思われる。

③訓練：発災時計画（初動対応マニュアル）

各部門発災時（初動対応）のマニュアルを作成し、各部門長に役割を周知している。

④訓練：30分後の更に30分間で行うこと

発災して一段落した時の行動をまとめたもので、どのような復旧計画で行うか各部門のやるべき事を記載したマニュアルを作成している。

⑤訓練：机上シミュレーション訓練（BCP委員）

くまもと産業支援財団、東京海上の支援で机

上シミュレーション訓練を作成し、実施している。自社バージョンのテンプレートを作り上げ、最悪のシナリオの対処方法に使用している。

⑥新入社員 防災教育

研修期間に担架訓練、防災カードゲーム、備蓄品調理実習といった訓練を行っている。

⑦訓練：机上シミュレーション訓練（幹部クラス）

南海トラフ巨大地震発災時のシミュレーションで、現実には似たような状況下、幹部クラスの意識統一とスムーズに行動できるよう、机上訓練を実施している。

なお、シナリオは、最悪の状況で被害を想定し、シミュレーションで行き詰まった点や問題点を把握改善しており、また幹部が集まっているため改善活動も行いやすい。

⑧訓練：机上シミュレーション訓練（深夜想定）

深夜帯に課長、部長、社長がいない状況で起きる様々な困難を解決するシミュレーション訓練を実施している。

⑨安否確認メール

日本のどこかで震度5強以上の地震が起こったら強制スタートで、会社「①所属、②名前、③自身の安否、④家族の安否、⑤明日の出勤」について送信してもらっている。送信内容は、部長、課長クラスで共有され部下の状態を把握することになっている。

⑩安否確認メール「大雨」

自身の住む地域で警戒レベルが4になった時強制発動という条件で実施している。

⑪社内防災プロジェクトの発足

BCP策定とは、別のプロジェクトで、社内防災設備品の充実、自宅の耐震化と家庭内備蓄推進を目的に実施している。

社内防災備品は、ヘルメット、軍手、革袋、ゴム手袋、ランタン、懐中電灯、ヘッドライト、防塵ゴーグル、防塵マスク、手ぬぐい、救急箱となっており、今後、酸素マスクの準備を考えている。

家庭内における防災意識向上としては、妻・子供の関心がポイントで、防災書籍や防災カードゲームの貸し出し、社内のデジタルサイネージや掲示板で啓発を行っている。

備蓄食料については、理想は3日分の準備、賞味期限の管理、最低でも水だけは備えておく必要がある。備蓄方法としては、普段多めに買うローリングストックという方法もある。被災時メールや電話は繋がらないので、LINEは社

員と連絡が取ることができ役立った。

☆被災して判った備えて欲しい防災用品

復旧活動は、電気も水も出ない発災直後から始まり、復旧計画を立てるには、パソコンがあった方が圧倒的に便利である。連絡手段用の携帯、スマホも充電ができるバッテリーは、かなり役に立つ。発電機は、普段は全く使わないので、維持管理を考えるとカセットガスで動く発電機の導入が良いと思われる。

☆今後の課題

今後の課題は、行政、企業との連携であり、中小企業の場合は、ゼロから単独でのBCP策定となると非常に難しいため、支援組織（組合、行政、商工会、財団、中央会）が必要である。

また、経営者同士の人脈も大事である。経営者同士が集まる機会に防災の話が合えば、連携がうまく進む可能性がある。さらにサイバー犯罪、情報セキュリティのBCP策定を対策にしていけないといけない。



☆最後に

当社では、熊本地震で大きな被害を受けてようやくBCPの重要性に気づき、本格的にBCPの策定に取り組んでいる。

災害は運だけで「何とかなる」とか「出たとこ勝負で何とかしよう」とか「最悪は行政が何とかしてくれる」といった漠然な考え方をしないようにして欲しい。

防災は、自ら行動する「自助」、地域で協力し合う「共助」、行政、公的機関が取り組む「公助」の3本柱で成り立っている。

防災も仕事と同じく安全第一で、会社、個人でそれぞれが出来ることから始めて欲しい。

本会は、多種多様な業種の組合等が会員となっていていただいています。各組合がその特徴を活かし日々活動を続けており、今後の組合活動のご参考になるよう、会員の皆様方の仲間取材し、紹介していきます。

協業組合 徳島印刷センター

「顧客満足度と従業員満足度の向上」により、
地域に密着した印刷会社として、社会への貢献を目指す！

■ 協業組合設立の背景と沿革

印刷業は昭和46年に中小企業近代化促進法に基づき、特定業種の指定を受け事業の適性規模達成、技術革新の導入による設備の近代化並びに高度化技術を核とする構造改善事業を推進することとなりました。

協業組合徳島印刷センターは、こうした時代の要請を機に昭和47年12月設備の近代化、従業員の福利向上を図るため、徳島市内で永年事業を営んでいた印刷会社4社が集まり全ての事業を統合する全部協業により組合を設立し、事業活動に邁進してきました。

印刷業界でデジタル化が進む昭和57年頃からは設備・技術ともに最先端の印刷会社を目指し、その対策に向けた研究を開始しました。平成6年には、徳島市問屋町に鉄筋3階建ての社屋でプリプレス部（企画・デザイン・編集・組版・校正・刷版までの工程）の充実を図りました。

■ 組合のモットー

社是は、創業以来「前進」としています。常に向上、進歩を信条とし互いに技術を高め合うことはもちろん、研究、自己啓発の一環として関連知識の向上（勉強量の増大、読書時間の拡大）を図り、また仕事では「ミスプリント皆無」を掲げ全従業員の10%を校正に充てており、3回にわたる校正によって「ミス」発生を厳重にチェックしています。

「校正の正確さ」「ミスプリント皆無」は、様々なお客様からも称賛されており「よくこの誤りを正してくれましたね。」「普通、見過ごしてしまう箇所をよくぞ発見してくれましたね。」などといった嬉しいお言葉をよくいただいています。



印刷サービスの中樞を担うプリプレス部



多種多彩な印刷サービス

■ 組合のブランド力の向上

昭和57年6月には四国通商産業局から「官公需適格組合」の証明を取得し、徳島県下の官公庁からの受注を主力に営業を展開してきました。

また「自然と人に優しい企業」を目指すため、平成16年7月には「ISO14001」同年11月には「ISO9001」を取得しました。

さらに、平成19年6月には、個人情報保護のマネジメントシステムを構築していることを証明した「プライバシーマーク」を取得、平成28年4月には環境に配慮した対応を進め、地球環境保全に貢献するため「エコアクション21」を取得し、平成29年12月には品質・環境・個人情報保護の3つの安心をお届けするため「消費者志向自主宣言」（消費者庁）を行うなど組合のブランド力の向上を推進してきました。

■ 健康経営の推進

当組合の従業員30名のうち、23名が10年以上の勤続者となっています。従業員それぞれが様々なライフステージを経験しながら長く働くことができるように、平成21年12月には「徳島県はぐくみ支援企業」認定、平成24年8月には徳島労働局から「くるみんマーク」を認定、平成28年12月には全国健康保険協会徳島支部から「健康事業所宣言認定証」を受けるなど、子育てに優しい職場環境づくりに積極的に取り組んでいます。

「社員の健康＝企業の健康」を健康づくり経営の目標に掲げ「健康な家庭の源」を実現すべく、受動喫煙防止対策や健康づくり行事を実施するなど日々の活動に邁進しています。



バレーボール大会集合写真



慰安旅行集合写真

■ 業界の将来を見据えた今後の活動

2015年9月、国連において国際社会が2030年までに持続可能な社会を実現するための重要な指針として、SDGs（持続可能な開発目標）が採択されました。このSDGsは、環境問題や健康問題、人権問題が大きな柱となっています。当組合では、SDGsと絡めた事業展開を行う。など、こうした良い時流に少しでも乗っていくことが経営を発展させ、長く続けていける勘所の一つと捉えています。

現在日本は、超高齢化社会を迎え「社会保障費の増加」「生産年齢人口の減少」といった問題に直面しています。また、人生100年時代が到来するとも言われている中で、当組合では、健康で働ける期間をより長くし、すべての社員がいきいきと働きがいを持って働くことが、組合の経営理念の一つでもある「高品質なサービスの提供」につながるという考えのもと、社員の健康管理を経営的視点から捉え戦略的に実施しています。加えて、エコアクション21取得による環境問題への対応やユニセフ、日赤、共同募金への寄附などを通して、目の前のこと、手の届く範囲のことを一つずつ積み重ねて、取り組んでいきたいと考えています。

印刷業界を取り巻く環境や技術も今後大きく変化していくと思われますが、「人と人との繋がり」が経営の根幹と考え、心と心のコミュニケーションをいつまでも大切に事業活動に取り組んでまいります。



SDGs・目標アイコン

組合プロフィール

協業組合 徳島印刷センター

住 所：〒770-8056 徳島市問屋町165番地

電 話：088-625-0135

FAX：088-622-0734

理事長名：多田 哲也

業 種：印刷業

設立年月日：昭和47年12月22日



理事長
多田 哲也 氏



有限会社 六車エンジニアリング

中央会では、平成 24 年度から始まった補正事業「ものづくり補助金」の地域事務局として、ものづくり・商業・サービス分野において独自の事業展開に取り組む事業者を対象に、補助金交付や事業推進支援を行っています。このコーナーでは、本補助金を活用して成果を上げておられる県内中小企業の皆様方を「ものづくりの達人」としてご紹介しています。

第 20 回目は平成 26 年度からものづくり事業に取り組まれた『有限会社六車エンジニアリング』様をご紹介します。同社は、様々なニーズに対応するため、高精度な加工技術と効率的な生産体制を構築し、建設クレーンや発電装置部品加工における「研磨レス加工技術」を確立されました。

この度は、六車功二社長にお話を伺いました。

1 御社は軸物加工に特化した事業内容になっていますが、取り組まれるようになった経緯と会社の沿革についてご説明をお願いします。

私は、15 年間、前職場でものづくりの知識や加工技術を習得しながら、創業者の好意により、経営者サイドの教育を受けました。

取引先との打ち合わせなどの時に、近県の金属加工分野において、建設クレーン部品等での 1～3m の長尺ワーク（製品）加工に大きな市場があると確信しました。

平成 17 年 2 月より、前職場の現社長にもご支援を頂き、長尺軸物の加工に特化した企業を独立創業しました。

建設クレーン部品加工をメインに、発電装置部品など、幅広い産業分野の多品種小ロットの加工を行い技術を磨いてきました。当時は、どんなに難しい加工依頼にも来るもの拒まずの姿勢で取組み、顧客に提供できる価値は何かを常に追求していくことで、他社には真似できない独自の強みを作り上げてきました。この積み重ねが、今では価格に左右されない価値ある仕事を各方面から頂ける礎になっているように思います。

現在の当社の強みである研磨レス加工技術とは、切削だけで研削と同等の寸法精度を実現する技術です。研磨工程をなくすことでコストダウンが図れ、加工から出荷までのリードタイムを短縮できます。また、研磨による形状の変化が起きないため切削で達成した精度で製品化で

きるのもメリットです。コスト面、納期面で納入先から高い評価をいただいています。

近隣にて、前職場と同じ金属製品製造業を起業しましたが、弊社は長尺大物加工を中心に据え、前職場の得意分野である各種精密機械部品等の小物加工と棲み分けを目指した事で、市場のターゲットが全く異なり、機械設備の面での加工協力や、連携もできており、大きな相乗効果が生まれています。



(有)六車エンジニアリング工場外観



六車功二社長

2 ものづくり補助金事業で平成26年度、平成28年度、平成29年度および平成30年度の4回採択されています。すべてNC旋盤を導入されていますが、それぞれの内容をお聞かせください。

平成26年度補正では、建設機械部品である油圧シリンダーの軸物研磨レス加工に挑戦し、顧客から一定の評価を得ていた内容をさらに拡大し、市場開拓を目指しました。

1000mmの長さでの外径寸法公差 $\pm 20\mu\text{m}$ の要求に対し、面粗度への対応、素材応力や季節外気温などによる変形の問題を解決しながらの独自のノウハウの習得を活かしたのです。1500mmを超える長尺ワークの研磨レス加工依頼に応えるため、2000mmまで加工可能な設備を導入し、習得したノウハウで解決を図る計画書を申請し、採択されました。

平成28年度では、金型部品の薄型真円加工に挑戦しました。取引先より金型部品の受注が増える中で、その都度治具を製作し、熟練工が取付加減などを調整しながら苦戦し、真円度などの精度をクリアして来ましたが。

そもそもワーク取付け用面板のような治具を用いる方法では押さえや締め付け力による歪の発生を少なくする加減が必要となります。誰が脱着しても同じ精度に仕上げる方法について全ての社員が意見を出し合い、治具を用いない加工方法が課題となりました。試行錯誤の結果、磁力の利用を考えつきました。簡易複合旋盤を導入し、強い磁力を持った磁石を必要な個所に埋め込みワークを固定することで加工が可能になると考え申請し、採択されました。

平成29年度では、真空部品の特殊形状高精度加工に挑戦しました。真空部品は高精度も必要とされますが、加工面の引き目も重視されます。また特殊な形状が多く、削り方法などの配慮もしなくてはなりません。この解決には、知能化システム搭載の最新複合加工機旋盤を導入することにより、より優れた加工方法を選択し、高精度加工を実現できると考え申請し、採択されました。

平成30年度では、大径円筒部品の加工に挑戦しました。創業14年が過ぎ、多くの取引先から加工受注を頂ける今日、加工依頼のワークが大径化して来ましたが。軸物ワーク主体での設

備仕様に体制を整備し、フランジ形状の大径ワークにも対応して来ましたが、高重量の工作物を片持ちで保持した加工は、作業者にも危険が伴うとともに、重力に逆らったチャッキング法では精度が安定しない状況が発生していました。大径ワークフランジ部品の安定した高精度加工を実現するという課題が明確になりました。

大径ワークをテーブルに置き、テーブルを回転させる複合立型旋盤を導入することで、必要以上にチャッキング力がかからないので高精度な加工ができるのではないかと考え申請し、採択されました。



(有)六車エンジニアリング工場内観

3 研磨レス加工技術を確立されているようですが、寸法・形状精度、面品位などとそれを具現化する方法について差しさわりのない程度でご披露いただけませんか。

研磨レス加工はリスクを伴います。なぜなら、1000～2000mmと長尺になるほど加工歪や熱変形を受けやすくなるからです。

加工途中での切削温度による工具と工作物の熱変形、工具摩耗や、工作機械の熱変形により形状・寸法にばらつきが生じ、加工後の測定では、製品にならないこともあり、一発勝負的な要素が見受けられます。特に、熱による影響は大きく、夏場と冬場では外気温の変化が生じ $\pm 20\mu\text{m}$ での公差維持が困難になります。

弊社では、長年にわたり熱変形データを取り、外気温一度あたりの補正を実行して対応しています。また、加工方法でのノウハウで、加工後の数値を事前に予測することで、 $\pm 20\mu\text{m}$ での研磨レス加工を行うことを実現しています。

加工面粗度では、加工刃先形状の違いを長年試した結果、優れた面粗度を長時間維持できる刃先形状を見つけることで実現しました。



CNC 旋盤 Mazak QUICK TURN 350 MY

4 立地条件からすると御社は極めて不便なところにあります。山深いところの良さ、あるいは御社のコンセプトと何か関係がございでしょうか。

弊社にお越し頂いた方によく驚かれます。「なぜこのような場所で?」「近くに八十八番札所大窪寺がありますが修行では・・・?」「工場に設備機械がよく入りましたよね?」などと言われます。

私の実家は工場の目の前にあります。当然のことながら幼少の頃からこの山奥で育ちました。そのお陰で中学校は 12km 下った所に通い、あだ名は山っ子でした。

笑話ですが、中学生の頃、父親に中古のドラムを買って貰い、嬉しくて一晩中叩いて練習した事がありました。翌朝、300m 離れている近所の老人が、トタンを剥がすような音がしたので、昨日家を壊していたのかと言い、笑いながら心配して訪ねて来てくれたことがありました。この地域の方々は、温かい人達ばかりです。私が小さい頃から悪いことをしたら本気で怒ってくれて、良いことをしたら褒めてくれました。

私は生まれ育った地区である「清水」がとても大好きで、今では二束三文の田んぼや山ばかりですが、工場の周りの田んぼは、実家の私有地なので、起業するには最高の工業団地と思いました。今でも近所の方々は、私の身体の心配や何か困ったことがあったら相談するようにと応援頂き、私の心は常に癒されています。

また、徳島・香川県の県境にある工場から香川県側の山々が見えます。昔の言い伝えで、この付近の山には天狗様がいて、徳島・香川を見下ろしたという話を聞いたことがあります。高松空港まで車で 30 分、徳島市内より高松市内の方が近く、幼い頃から讃岐の文化に親しんで

きました。県境ということで香川県の方にも親しみを感じて頂いており、徳島・香川両県での営業活動には最高の立地条件と感じております。



複合型旋盤 Mazak QUICK TURN NEXUS 400 II M

5 企業は“人”が基本と言われます。御社が心がけている人材育成についてお聞かせください。

私が起業した頃は、一人で営業・加工・納品業務を行いました。納期対応で多忙な時には、3 日間で 4 時間の睡眠しか取れない時期もあり、一年半を過ぎた頃、運命的に人材に恵まれ、片道 50 分の距離を通勤できる方を雇用することができました。「企業は人なり」とよく言われますが、私は 15 年間務めた会社で、師匠から沢山のことを学びました。精進すれば、報酬の増加や人もついて来ることに気づきました。

このような山奥にあっても、5 名の従業員の方々が働きに来ています。私は常に、従業員には隠し事はしません。良いことがあっても、悪いことがあっても全てを話し、皆で分かち合うようにしています。

あのリーマンショック後の平成 21 年、弊社 3 年目にはもうこれまでかという危機を迎えたとき、私は先行きを案じ従業員全員を解雇する決断を取ろうとしました。

ある従業員に話し、家族で相談してくるようには言いました。翌朝、その従業員は「嫁が半年は大丈夫です。」と報告してきたので、私は「何が大丈夫か」と聞くと、従業員は「嫁が給料半年は貰わなくても大丈夫だから、お父さんは会社のために頑張って欲しいと言われました。」と答えました。

私は正気を取り戻し、覚悟を決めました。「嘘を付かずに毎日頑張っている姿は、従業員や家族にも伝わりこんな情けない代表者を募ってくれる。」と思いました。以来、今日まで、従業員に対しては「皆が経営者であれ。」を合言葉

に頑張っています。皆で考え、努力し、報酬を分け合う。それにより、自然と各自が責任を持ち、ものづくりを通して人が育成されているような気がします。



複合加工機 Mazak INTEGREX J-300

6

徳島県にも金属加工をメインに経営されている事業所がたくさんあります。独自の製品を持たないために技術やコストで競争する必要があります。世間に認められる金属加工はどうあるべきか、その将来像を含めてご披露していただけませんか。

創業 14 年しか歴史がない私が言うのは生意気かもしれませんが、私が思うに金属加工業は、飲食店と同じであると思います。餃子が旨い、ハンバーグが旨い、魚好きにはたまらない、大なり小なりその店の売りが必要ではないかと思っています。

昔から、人と同じことやってたんじゃ、とか儲けに走ったらだめだとかよく聞きます。以前知人が居酒屋を開店することになり、あの店は 480 円だから、うちは 430 円、仕入れがいくらで・・・というように最初にメニュー金額を決めていました。私は、知人に「それはお客様が納得する味なの？金額も・・・」と言いました。知人は「えっ？」と言った感じでしたが、その後長くは続きませんでした。忘れてはいけないのが信念だと思います。

私は、ものづくりに関わる上で、先人達が培ってきた日本のものづくりに対する情熱や熟練した技術を忘れてはいけないと思います。便利な道具もなく、重機や機械もない時代に自ら考え、知恵を絞り合い、先人達は偉大なものづくりの歴史を継承してきました。生物のように変化する事を恐れず、この時代に柔軟に対応できることが必要であると思います。

日々、早いスピードで変化する世の中において、ものづくりを通してどのように社会に貢献できるか、開発や発明ができなくとも、その思いが沢山の方々に伝わり、先人達と同じように後世に日本のものづくり魂を継承していければと、零細企業ながら強く思っています。



六車社長と社長を支える従業員

【取材を通して】

六車社長が、「ものづくり補助金の申請時期が一番楽しくて生き活きしている。補助金の採択・不採択を別にして、自社の将来を考える時間が頂ける。今後、自社が市場でどのように発展していくかを考え、ものづくりに挑むかが重要である。」と力強く話されたことが、とても印象に残りました。

当日は、六車社長が工場を案内してくださり、従業員と共に 1 つのチームになって、他に真似できない技術を確立し、ものづくりの現場を担っていることを感じました。

六車社長様この度はお忙しい中ありがとうございました。

企業の概要

- 会社名 有限会社六車エンジニアリング
- 所在地 美馬市脇町字西俣名1496番地
- 電話 0883-53-9431
- FAX 0883-53-9432
- E-mail muguruma.eng@hikari-net.ne.jp
- 代表取締役 六車 功二
- 設立年月日 平成18年2月22日
- 従業員数 5名
- 業 種 金属製品製造業



組合ホットニュース

化学肥料や農薬を使わない有機 JAS 規格の認証取得を推進 ～協同組合日本茸師の会～

協同組合日本茸師の会（にほんなばしのかい）は、2020 年の東京五輪や 2025 年の大阪・関西万博開催による外国人観光客の増加を見据え、徳島発祥の菌床シイタケ「天恵菇（てんけいこ）」のブランド力を高めるため、化学肥料や農薬を使わない有機 JAS 規格の認証取得に取り組んでいます。

同組合員の高野キノコプラントは、令和元年 9 月 26 日、菌床シイタケでは徳島県内初の有機 JAS の認証取得し、同月 30 日から「天恵菇」のパッケージに認証マークを貼付し、出荷を開始しています。

「天恵菇」は、傘の直径が平均 12cm ある大型、肉厚が特徴のシイタケで、高野キノコプラントが開発し、現在徳島県内 7 組合員のほか、8 道県の 46 組合員が生産しています。今後、高野康弘社長が、希望する組合員を対象に栽培方法についての講習会を開催するなどして認証の取得を進めることとしています。



巨大シイタケ「天恵菇（てんけいこ）」

両国本町インバウンド阿波踊りを開催 ～徳島市両国本町商店街振興組合～

徳島市両国本町商店街振興組合は、外国人旅行者を対象に令和元年 10 月 20 日(日)、有名連・浮助連による体験教室を開催しました。

体験教室では、浮助連の連員が阿波踊りの歴史や手足の動かし方、鳴り物の演奏方法を指導するとともに、書道や茶道の教室も行いました。書道では、無地のうちわに墨で好きな漢字を書き、阿波踊りで使うオリジナルのうちわを作製しました。その後、参加した外国人旅行者は、法被と鉢巻きを身に着け、日曜市が催されている新町川水際公園で法被を着て阿波踊りを披露しました。

同商店街では、令和元年 5 月の低価格な宿泊施設のオープン後、外国人旅行者が増加しているため、滞在中の外国人旅行者に対し今後より一層阿波踊りを PR し、満足度を高めリピーター獲得や商店街の活性化を図っていきます。



参加者による集合写真

アクア・チッタフェスタ2019で御膳みそをPR／第62回全国味噌鑑評会で組合員企業2社が受賞 ～徳島県味噌工業協同組合～

徳島県味噌工業協同組合は、令和元年11月16日(土)徳島市の万代中央ふ頭で、御膳みそPRのためアクア・チッタフェスタに初めて出店しました。なお、当日はキャラバン隊を編成して、今年作成した御膳みそパンフレットを来場者約500名に配布し、PR活動を実施しました。

また、令和元年10月23日～24日、同組合の組合員が第62回全国味噌鑑評会に出品し、下記の通り組合員2社が各賞を受賞されました。この鑑評会は、味噌の品質と技術の向上を目指すことを目的としており、今回は、全国から380点(うち徳島から10点)出品されました。なお、同日に行われた審査会では、全国の味噌の官能に優れた技術者や研究者で構成する審査員が、色、香り、味、組成のそれぞれについて総合的に採点されました。



アクア・チッタフェスタ2019出店ブース写真

受賞者名	銘柄	受賞名
かねこみそ株式会社	金の御膳	全国味噌工業協同組合連合会会長賞
有限会社志まや味噌	御膳みそ	全国味噌鑑評会審査長賞

組合創立50周年「Next Stage 50th ～次の時代への躍動～」記念式典を開催 ～徳島製材団地協同組合～

徳島製材団地協同組合は、令和元年11月18日(月)徳島市のJRホテルクレメント徳島において、創立50周年記念式典を開催しました。同組合は、木材・木製品製造業者等の14事業者で構成され、製材工場の帯鋸の研磨を行う目立事業や木材チップ共同販売等の事業を行っています。

記念式典では、来賓、組合関係者等総勢101名が出席し、多田雅信理事長が『創立50周年記念行事を新たな節目として、組合の原点である「団結・協調・相互扶助」を更に発展、「躍動」させることにより、本県産業界に貢献できるよう、一層努力していきたい。』と挨拶されました。式典の席上、組合功労者や永年・優良勤続者に対して表彰が行われ、商工組合中央金庫から感謝状が授与されました。式典後の祝賀会も華やかに執り行われ、大いに盛り上がりしました。



多田雅信理事長による主催者挨拶



記念式典会場風景

徳島市と災害時における人員の輸送等に関する協定書を締結 ～徳島県個人タクシー協同組合～

令和元年 11 月 22 日(金)徳島市役所において、徳島市と徳島県個人タクシー協同組合は、大規模災害発生時に、タクシーによる人員の輸送を円滑に行うための協定を締結しました。

この協定により、災害が発生した際、徳島市の要請により同組合に所属する個人タクシー 49 台を傷病者や被災者などの輸送や避難所への職員の派遣などを優先して行うこととなり、輸送の際の料金は、徳島市が負担することになっています。なお、災害時のタクシーによる人員輸送に関する協定締結は、四国では 3 例目で、徳島県では初めての締結となります。



締結式出席者による集合写真

協同組合鳥取金属工業会と組合間連携交流会を開催 ～協同組合徳島県機械金属工業会～

協同組合徳島県機械金属工業会は、令和元年 11 月 25 日(月)鳥取県鳥取市において協同組合鳥取金属工業会と組合間連携交流会を開催しました。同組合は、平成 29 年 2 月に協同組合鳥取金属工業会と災害時組合間連携協定を締結して以来、連携協定をより効果的なものとするために、鳥取・徳島両県の組合員企業への訪問、交流会における意見交換など、相互交流を進めています。

当日は、協同組合鳥取金属工業会の組合員である鳥取旭工業株式会社の電池・電子・家電部品のメッキ部門やプレス部門等を視察後、両県企業における BCP の取り組みや今後の組合間連携協定の方向性等について意見交換を行いました。

今後も組合間連携協定による企業交流や両県中央会が推進している相互安心ネットワークの賛同企業の登録推進の協力等、連携の輪を拡げていくこととしています。



鳥取旭工業(株)視察



(協)鳥取金属工業会との交流会

第11回児童木工工作「木とふれあうコンクール」表彰式を開催 ～徳島県木材買方協同組合～

徳島県木材買方協同組合は、令和元年12月1日(日)徳島市の徳島県教育会館において、第11回児童木工工作「木とふれあうコンクール」表彰式を開催しました。

このコンクールは、木の温かさ、優しさは勿論のこと、木材が地球温暖化対策の中心的位置を占める二酸化炭素削減問題に最も寄与する再生可能な唯一の資源であることの理解を深めてもらうため開催しています。

木工作品は、小学生を対象に、夏休みを通して募集され、県内43校の小学校が参加し、115点の応募がありました。9月22日に審査会が行われた結果、徳島県知事賞等21点の優秀作品、努力賞の11点、委員長賞の51点が決定され、木工作品が県庁県民ホール、県教育会館で展示されました。

なお、毎年本コンクールには、徳島県中小企業団体中央会会長賞を贈呈しており、下記の作品が受賞しました。

昭和小学校 5学年

椎野 朱麒斗(しいの じゅきと) 君

作品名「住んでみたいな昔の家」



本会会長賞を授与



本会会長賞を受賞した作品

JU 徳島チャリティボウリング大会を開催 ～徳島県中古自動車販売商工組合青年部～

徳島県中古自動車販売商工組合青年部は、令和元年12月6日(金)徳島市のスエヒロボウルにおいて、JU 徳島チャリティボウリング大会を開催しました。

同大会は、お客様、会員、家族間のコミュニケーションを図ることを目的に、毎年実施しており、参加費の一部を「公益財団法人徳島の盲導犬を育てる会」に寄付しています。

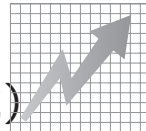
第8回目の大会は、過去最高となる93名が参加し、参加企業や団体から多くの協賛品が提供されました。当日は、「徳島の盲導犬を育てる会」の上田美治理事長と鶴野氏(利用者)と盲導犬、ボランティアの方も参加し、大西良範青年部会長から挨拶と始球式が行われ、ゲームがスタートしました。どのグループも白熱したプレーが繰り広げられ、参加者一同、和やかな雰囲気のもと親睦・交流が深まる楽しい時間となりました。



参加者による集合写真

令和元年 10月

情報連絡員レポート(前年同月比)



この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員 49 名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

《全体の景況》

電気工事業や土木建築業では需要が好調。食品製造業においても出荷量が回復の兆しがみられるとの明るい報告も寄せられた。

一方、技術者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や燃料価格の高止まりに加えて、消費増税前の駆け込み需要の反動減の影響が多く業種で収益を圧迫している。また台風等の自然災害による被害や作物への影響、物流停滞を嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復が続いていると言われているものの、エスカレートする米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢に加え、消費増税及び軽減税率導入の影響等による国内外経済の下振れリスクが存在しており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

【製造業】

＜食料品＞

【味噌】 前年同月比、みその生産量は 95.5%、出荷量は 100.7%となった。年間の前年累計比は生産量 99.2%、出荷量 99.4%となっており、県内は全国に比べてやや低調であるが、回復の兆しがみられる。

＜繊維・同製品＞

【縫製】 生産性については、非効率の選択肢であるが、増員で生産数量に対処している。一方、新設備導入を順次進めて、生産性向上を計る予定である。収益については、前倒し受注増による経費がコスト高に推移している。

【縫製】 アパレル・縫製業は常に危機感があり、状況は非常に悪い。市場は低迷、商品が売れていないので、生産オーダーが減少している。受注の殆どが海外生産に移行して、残った 3 割位の受注を国内業者が受注競争をしているのが現状である。

＜木材・木製品＞

【製材】 消費増税の駆け込み需要もなく、木造住宅の新築着工数も前年割れの状況が続いており、非常に厳しい状況が続いている。

【木材】 秋需最中、原木入荷量は非常に多い状況が続いている。価格は横這いで推移しているが荷動きが良く、買気も出始めている。

【木材】 消費増税後から極度な冷え込みが襲ってきた。プレカット工場も仕事数が極端に減少している模様。

【製材】 一進一退の状況で先行不透明である。

＜印刷＞

【印刷】 例年に比べて催し物やイベント関係が好調だったものの売上高の増加には直結していない。消費増税に関しても、その反動減の影響が少なからずある。

【印刷】 消費増税に対する駆け込み需要が多少あった反面 10 月に入り売り上げが落ち込んでしまったようだ。顧客の中でも特に流通業、小売業ではかなり影響があるように聞いている。

＜窯業・土石製品＞

【生コン】 昨年同月と比較して約 10%減少。特需工事がピークを過ぎ、公共工事の需要は動きが少ない。今年度下半期の見通しは、昨年度と比べて 1 割～2 割程度減少すると予想している。

【生コン】 出荷数量は、対前年同月比横這いであった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官民工事での四国横断道路関連工事・河川改修でのブロック制作工事はあるものの新規工事が少ない為。

＜鉄鋼・金属＞

【鉄鋼】 業況に大きな変化はみられない。また、設備操業度なども概ね横ばい状況で推移している。依然として必要な人材の確保が課題となっている。

【ステンレス】 国内の設備投資は引き続き大手を中心に堅調な推移となっているが、海外情勢の影響による日本経済の影響については先行き不透明感が継続しているため、今後の設備投資に対する姿勢が慎重になる可能性もある。

＜一般機器＞

【機械金属】 売上高や引合いなど、一部で減少傾向が見られるものの、良好な水準を維持しており、全体として、景況感に大きな変化は見られない。

【非製造業】

＜卸売業＞

【各種商品卸】 人口減、高齢化による絶対需要の減少が、県内及び四国の業界全体に感じられる。

【食糧卸】 水害等による米の作況が心配される。

＜小売業＞

【ショッピングセンター】 売上高の前年対比は全店計 88.8%、客数 91.8%だった。消費税増税による需要の冷え込みや大雨等の影響が重なり、かなり悪かった。

【電気機器】 消費税増税対策のキャッシュレス決済が少し増加したが、売上げ及び収益には大きな変化はなし。

【量小売業】 9 月中頃より、消費税がらみの駆け込みがあり、10 月まで持ち越した。カビの発生も多かったので対応に追われた。防カビ品や和紙表などの引き合いが多かった。

＜商店街＞

【徳島市】 徳島そごうの先行きを気にされている方が多い。増税は 2%なのでそんなに影響を感じないが、人の動きは相変わらず悪い。キャッシュレス決済される方が増えた。

【徳島市】 消費税増税に伴い、価格を変更した店舗もあるようだ。

【阿南市】 業況に変化なし。

＜サービス業＞

【土木建築業】 去年に比べ橋梁補修、構造物修繕工事が多く発注されている。

【自動車整備】 登録車・軽自動車ともに新車、中古車販売台数は大幅に減少。前月度までの増税前による駆け込み需要の反動減が顕著にあらわれる結果となった。

【旅行業】 四国内ではあまり被害はなかったが、関東の水害などで今後、旅行業に影響が出てくるのではないかと懸念。

【ビル管理】 特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件が変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。急激な最低賃金の引上げに伴う影響が徐々に現れて来ている。

＜建設業＞

【建設業】 公共事業は増加しているが、相変わらず技術者や技能労働者の不足などにより、不調・不落の工事が多い。

【板金工事業】 仕事量は少し減少したようだ。

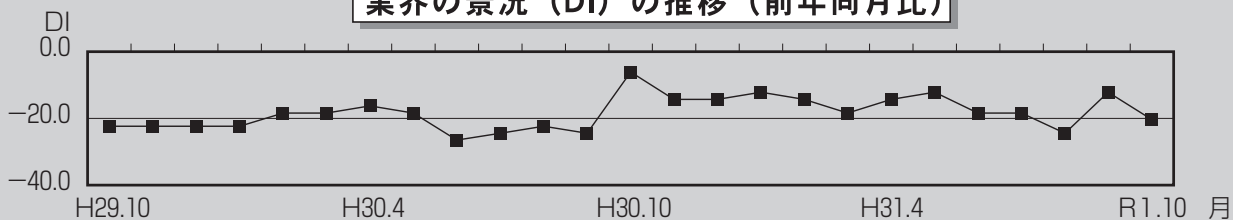
【電気工事業】 新設住宅口数は 291 件であり、対前年比 222.1%と大幅に増加した。

＜運輸業＞

【貨物運送業】 一般貨物輸送は、例年並みに推移。今月の軽油平均単価は 4 月のピークから約 7 円強の値下がりとなっており、運転手不足による人件費の値上りをカバーしている。

【貨物運送業】 鉄道によるコンテナ輸送を行っている事業者や宅配事業者は、被災地域への運行ができず、荷物が停滞、減少した。消費税率引き上げに関して、10 月に入ると売上が落ちた事業者が多い。酒類など、増税前の需要増の反動があったようである。

業界の景況 (DI) の推移 (前年同月比)



※ DI 値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー



青年部活動トピックス



◇商工 3 団体次世代プロジェクト会議 防災関係視察研修◇

令和元年 11 月 12 日(火) 大阪市立阿倍野防災センターにおいて防災体験学習に、13 日(水) インテックス大阪において関西オフィス防災 EXPO に参加し、徳島県中小企業青年中央会から 4 名参加致しました。

大阪市立阿倍野防災センターでは、防災関係の映像を視聴した後、各種防災体験（①減災を学ぶ、②消火及び煙を学ぶ、③余震体験及び避難支援を学ぶ、④救助を学ぶ、⑤震度 7 体験を学ぶ）に参加しました。

インテックス大阪では、「災害対策製品」「備蓄品」「発電・蓄電」「非常用通信」「感染症対策」など、あらゆる防災製品・サービスを確認しました。来場した企業・官公庁・学校・病院の総務・防災・危機管理部門の方々から現在の最先端の防災グッズや防災システムの使用の仕方を学びました。



防災体験①（阿倍野防災センター）



防災体験②（阿倍野防災センター）



関西オフィス防災 EXPO ①



関西オフィス防災 EXPO ②

◇令和元年度 組合青年部全国講習会◇

令和元年 11 月 15 日(金) 秋田県秋田市の「秋田キャッスルホテル」において、令和元年度組合青年部全国講習会が開催されました。

開会にあたり全国中小企業青年中央会 田中会長から挨拶がありました。続いて、プルデンシャル生命保険株式会社 静岡支社第二営業所 佐藤 智明氏より「事業承継は何故なかなか上手くいかないのか？」をテーマに、講演が行われました。事業承継を上手に進めていくための、3つの戦略について学びました。

講演終了後、来年度の全国中小企業青年中央会通常総会及び組合青年部全国講習会の開催日時等について報告がありました。また、各都道府県の会長が各グループに分かれ、「青年中央会で取り組んでいる活動」について意見交換を致しました。

懇親会では、秋田県副知事他多数の来賓の方々に出席して頂き、またなまはげが太鼓パフォーマンスをする等大いに盛り上がった後、来年度の全国中小企業青年中央会通常総会開催地の岡山県青年中央会と全国講習会開催地の群馬県青年協議会のメンバーから挨拶があり、盛会裡に閉会となりました。



講習会



UBA サミット



懇親会



次年度開催 PR

★今後のスケジュール★

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ○令和 2 年 2 月 7 日 | 四国ブロック会長会議 |
| ○令和 2 年 2 月 7 日 | 商工 3 団体青年部四国トップ会議 |
| ○平成 2 年 2 月 10 日 | 組合青年部リーダー交流会議及び新年互礼会 |
| ○令和 2 年 2 月下旬 | 商工 3 団体青年部次世代プロジェクト会議 |



女性部コーナー



女性部活動トピックス



◇令和元年度レディース中央会全国フォーラム in 神奈川◇

令和元年 10 月 10 日(木)、全国中央会と全国レディース中央会が横浜ロイヤルパークホテル（横浜市）にて「令和元年度レディース中央会全国フォーラム in 神奈川」を神奈川県中央会・かながわ女性経営者中央会と共同で開催しました。全国各地から約 250 名の女性経営者や組合女性部等の関係者が参加しました。とくしまレディース中央会からは、中本ユミ子会長、天野多栄子副会長、川原佳子副会長が参加されました。



主催者挨拶（吉田会長・全国レディース中央会）



基調講演（宮崎講師・(株)陣屋 代表取締役・女将）



パネルディスカッション



懇親会来賓祝辞（安倍昭恵様・内閣総理大臣夫人）



来年度開催地挨拶（宮崎県レディース中央会）

基調講演、パネルディスカッションでは、事例発表や参加者間による活発な討議がなされました。その後の交流懇親会では、他県のレディース中央会の活動内容や、状況などをお伺いし、活発な意見交換が図られました。

最後に、来年度の全国フォーラムは宮崎市にて開催することが発表され、宮崎県レディース中央会の吉田陽子会長より挨拶があり、盛況のうちに終了しました。

◇鳥取県視察及び鳥取県女性中央会との意見交換会◇

令和元年 11 月 29 日(金)、鳥取女性中央会会員企業（株式会社海産物のきむらや、千代むすび酒造株式会社）の視察及び鳥取女性中央会との意見交換会を鳥取県境港市・米子市で開催しました。とくしまレディース中央会からは、中本ユミ子会長、天野多栄子副会長をはじめ 11 名が参加されました。



(株)海産物のきむらや社屋前



千代むすび酒造(株) 酒蔵見学

意見交換会では、各県の事業報告のほか、女性部会員増強のための取り組みや交流活動における工夫など様々な視点での議論がなされました。

その後の懇親会では、心温まるおもてなしで迎えていただき、会員同士での交流を深め、盛会のうちに終了しました。



意見交換会で発表する中本会長



鳥取女性中央会 堀田会長のご挨拶

★今後のスケジュール★

- 鳥取視察振り返り研修会（令和 2 年 2 月17日 徳島市）
- 新年交流会（令和 2 年 2 月17日 徳島市）
- 理事会（令和 2 年 3 月中旬 中央会会議室）



中央会トピックス

徳島ビジネスチャレンジメッセ 2019 に出展

令和元年 10 月 10 日～12 日の 3 日間、アスティとくしまにおいて、「新時代への転換」をテーマに徳島ビジネスチャレンジメッセ 2019 が開催されました。

当会からは 4 事業者が出展し、ものづくり支援事業を実施した事業者の技術の普及、販路開拓や販売支援をすることを目的にブースを設け、パネルや成果物、また事業者自身により試作品の実演や実施事業の説明が行われました。

会期中には、新製品・新技術開発につながる多数のセミナーやビジネス拡大のヒントとなる多彩な講演会も開催され、3 日間の来場者数は 27,000 人に上り、企業や県民の皆さまに、ものづくり補助金の活用事例や事業活動の研究成果を見て頂けるよい機会となりました。



ものづくり補助事業者による成果事例を展示



出 展 事 業 者

- ・ 有限会社森吉商店
- ・ D-PLAN 株式会社
- ・ 株式会社バンブーケミカル研究所
- ・ 株式会社花菱商店

(順不同)

四国 4 県中小企業団体中央会 合同ものづくり企業展示商談会を開催

令和元年 11 月 21 日、22 日、大樹生命ホール（東京都大手町）において、販路拡大を目指す四国 4 県のものづくり企業 37 社（徳島県 7 社）の展示商談会を開催しました。

この商談会は、ものづくり補助金を活用し、成果を上げている四国の中小企業の優れた製品・技術等の販路開拓を支援することを目的に、平成 29 年から四国 4 県中央会合同で開催しています。

両日の展示商談会では、117 社 120 余名の招致企業及びバイヤーが来場し、参加企業は熱心に自社製品・技術等を売り込み、商談を行いました。商談の空き時間には、経営支援 NPO クラブのコーディネータが出展企業と今後の販路開拓について具体的なアドバイスを行うなど、出展企業ブースでは空席がほとんどない状態で、盛況裡に閉会しました。



展示商談会会場 風景



出 展 事 業 者

- ・ 株式会社アクティス
- ・ 朝日音響株式会社
- ・ 株式会社アスカ
- ・ 株式会社阿波スピンドル
- ・ 株式会社栄工製作所
- ・ 日本システム開発株式会社
- ・ 株式会社山文

(順不同)

第71回中小企業団体全国大会(鹿児島県)を開催 ～新時代の幕開け 団結でひらく 組合の未来～時空を超えて 舞台は鹿児島から～

令和元年 11 月 7 日(木)、鹿児島県鹿児島市「鹿児島アリーナ」において、第 71 回中小企業団体全国大会（主催：全国中央会・鹿児島県中央会）が盛大に開催されました。

政府をはじめ関係各方面より多数の来賓を招き、全国の中小企業団体の代表者約 3,000 名、うち本県から 32 名が参加して、「中小企業・小規模事業者等の生産性向上支援等の拡充」、「中小企業の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進」、「震災復旧・復興支援、豪雨等による災害対策の拡充」、「中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備」など 26 項目が決議されました。

これと併せて、本大会では、優良組合（34 組合）、組合功労者（86 名）、中央会優秀専従者（22 名）の表彰が執り行われました。今回、当県からは組合功労者として徳島県鉄鋼協同組合 理事長 坂本 守氏、徳島県環境整備事業協同組合 理事長 中川 幸彦氏、中央会優秀専従者として阿部 浩士氏が表彰の栄誉に輝かれました。



第 71 回中小企業団体全国大会

◆ 組合功労者表彰 ◆

徳島県鉄鋼協同組合

理事長：坂本 守氏



業界の近代化・合理化を図るため設立された本県第 1 号の団地組合の理事長に平成 25 年就任する。その後各種事業を展開しつつ、近い将来発生するであろう災害から組合員及びその従業員を守り、安心して安全に業務が遂行できる環境の実現のための活動を積極的に展開している。なお令和元年には徳島県中小企業団体中央会の副会長に就任し、県内の組合及び中小企業の発展・振興に大きく貢献している。

◆ 組合功労者表彰 ◆

徳島県環境整備事業協同組合

理事長：中川 幸彦氏



廃棄物処理や浄化槽に係る諸問題について行政と協調して環境衛生の向上を図るため設立された組合の初代理事長に就任する。その後各種大規模災害時、被災者の生活・衛生環境の改善支援活動を展開される他、被災時支援の教訓を活かした社会インフラの早期復旧を図るため、関係方面との協定を締結する。平成 27 年徳島県中小企業団体中央会の理事に就任し、組合組織の育成強化に大きく貢献している。

なお、次期全国大会は、令和 2 年 10 月 22 日(木)、茨城県において開催することが決定し、大会旗が全国中央会の森 洋会長から茨城県中央会の阿部 真也会長へ継承され、阿部会長が次期開催地会長挨拶を行いました。その後、独立行政法人中小企業基盤整備機構の豊永 厚志理事長のかけ声で万歳三唱の後、閉会となりました。



次期開催地である茨城県中央会阿部真也会長に大会旗を継承



「中小企業等協同組合法施行 70 周年及び 中小企業団体の組織に関する 法律施行 60 周年記念式典」を開催

中小企業等協同組合法施行 70 周年及び中小企業団体の組織に関する法律施行 60 周年記念式典が、全国中小企業団体中央会及び都道府県中小企業団体中央会の共催により、令和元年 11 月 26 日(火)東京都港区の ANA インターコンチネンタルホテル東京において開催されました。

式典には来賓として、宮本周司経済産業大臣政務官、鈴木俊彦厚生労働事務次官、河野義博農林水産大臣政務官、瓦林康人国土交通省公共交通・物流政策審議官、遠藤俊英金融庁長官、渡邊政嘉中小企業庁経営支援部長ほか、多数の方々のご臨席され、協同組合、商工組合等の発展と中小企業の組織化の推進を図ることを目的に、組合運営が特に優良と認められ、他の模範とするに足る「優良組合」並びに協同組合、商工組合等の発展に寄与した功績が顕著な「組合功労者」に対する表彰が行われた。(徳島県の受表彰組合と受表彰者については、次のページにて紹介)





全国中央会 森 洋 会長挨拶



宮本周司経済産業大臣政務官 来賓祝辞

中小企業等協同組合法施行 70 周年に係る表彰

[順不同・敬称略]

【経済産業大臣賞表彰】

協同組合等功労者 青木 秀夫（協同組合徳島総合流通センター 前理事長）

【中小企業庁長官賞表彰】

優良協同組合等 鴨島電気工事協同組合
徳島県鉄骨構造協同組合

協同組合等功労者 泉 学（全日食チェーン四国協同組合 理事）
渡邊 啓二（徳島県鉄骨構造協同組合 副理事長）

【全国中小企業団体中央会会長表彰】

組合専従優良職員表彰 川中 由美（徳島県鉄鋼協同組合 事務主任）
川人 朋子（鴨島電気工事協同組合 事務局）
田渕 政廣（協同組合徳島繊維卸団地 事務局長）

中小企業団体の組織に関する法律施行 60 周年に係る表彰

【中小企業庁長官賞表彰】

商工組合等功労者 市岡 通裕（徳島県菓子工業組合 理事）

【全国中小企業団体中央会会長表彰】

組合専従優良職員表彰 今井 良典（徳島県自動車整備商工組合 総務部 部長）
岡崎 茂（協業組合徳島自動車 管理部長）
杉原 孝治（協業組合徳島印刷センター 部長）

徳島県からは、2 組合、10 名の方々が受賞の栄誉に浴されました。心よりお喜び申し上げます。

組合活性化情報令和元年度第 1 号から中央会事務局職員が会員の皆様に、より親しんでもらえるよう、プライベートなこと（趣味、特技、熱中している物事、最近気になっている物事など）について、綴っていきます。第 3 回目は、橋本事務局次長です。

橋本 典子 [事務局次長]

プロフィール

①自己紹介

私は今年の 8 月で 54 歳になりました。巳年生まれで、星座は獅子座、血液型は A 型です。子供時代は、徳島県の神山町という緑に恵まれた山のなかでのんびりと育ちました。子供の頃から、将来の夢はと聞かれた時、いつも「専業主婦」と答えていました。結婚して、子供をたくさん産んで、幸せになりたいと常に願っていました。

②就 職

中央会に就職し、最初はお客様に花茶を出すだけでもおろおろするような状態でしたが、素晴らしい女性の先輩に恵まれ、花茶の出し方、お客様との接し方、電話の応対、仕事のやり方を見て、自分は育てられたと今でも感謝しています。また、男性の先輩の中に、非常に仕事熱心で、文章や絵を書くのが上手な方がいて、その方の仕事への熱意、誠実さ、創意工夫には、いつも感銘を受けて、少しでも近づくことができるようになりたいと心がけております。

③結婚・出産・育児と仕事

仕事を始めて 1 年後に結婚し 3 人の子供に恵まれました。子供をたくさん産むのが夢だったので、この夢は一応叶ったわけですが、朝保育所に預けるたびに、大泣きされ、保育所から出て行こうとすると裸足で追いかけてくるのを無理矢理振り切って仕事に行っていました。また、アトピーで喘息持ちだったため、保育所も休みがちで病院通いの毎日だったので仕事をする上で、さまざまな障害がありました。夫や夫の両親はもちろん、実家の両親の協力を得て、なんとか乗り切ることができたと思いますし、職場の上司の理解や、同僚のサポートにも非常に感謝しています。

④現 在

3 人の子供たちはそれぞれ県外で就職し、現在は夫と二人暮らしです。家では毎日のように大好きな映画を観たり、休日には映画館に行ったり、美味しいものを食べたり、以前と比べると自分の自由な時間を楽しめるようになりました。

生活に余裕が生まれた今、少しずつ新しいことにチャレンジし、死ぬまで成長し続けることができるように、日々学んでいきたいと思ひます。



神戸異人館にて
シャーロック・ホームズになりきる橋本です。

編集 後記

- ◆ 新年おめでとうございます。今年も本誌の編集内容を一層充実させていきたいと思います。第 153 号発刊にあたり、関係機関の方々からご協力いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。
- ◆ 巻頭に、本誌初の新年特別企画で、株式会社商工組合中央金庫の一ノ瀬浩道德島支店長と本会の布川徹会長による「昨年の経済状況と今年の徳島経済の見通し、創立 65 周年を迎える今後の中央会・中小企業組合のあり方」についての令和 2 年新春対談を掲載しています。ご一読頂き、会員の皆様が、厳しい環境を乗り越え、新たな事業活動を行う際の参考にしていただければと思います。
- ◆ 特集 1 では、「徳島県の労働事情」を掲載しています。詳細については、中央会までお問い合わせ下さい。特集 2 では、「徳島県企業 BCP 認定制度認定証交付式及び BCP トップセミナー」を掲載しています。BCP は策定しただけでは不十分であり、BCP の実効性を図る上で、日頃から従業員への BCP 教育と併せて、定期的な訓練の実施が不可欠です。BCP 策定企業においては、「どのような訓練をしたら良いかわからない」、「訓練がマンネリ化している」といった悩みがあると思います。今回の BCP トップセミナーの講師である株式会社熊防メタルでは、定期的に様々な訓練を行っており、その内容を掲載しています。皆様も斬新な訓練があれば中央会までご連絡下さい。
- ◆ ものづくりの達人では、有限会社六車エンジニアリングを紹介しています。同社は、一見すると不便な徳島県と香川県の県境の山間地に位置しています。しかしながら、徳島・香川両県の情報が入るとともに、両県に営業活動をするなど、地の利を活かした経営をされていました。また、研磨レス加工というオンリーワン技術を確立されており、高い技術力と強いチームワーク力を感じました。この度は貴重なお時間を頂きありがとうございました。
- ◆ 新しい年を迎えると、各組合・団体などにおいて、新年会が開催されます。この時期になると、自分自身が新年会での飲食が原因で感染性胃腸炎にかかり、腹痛、下痢、嘔吐、発熱に悩まされ寝込んでしまい、新年早々、休暇を取得し、また家族が感染寸前になったことを思い出します。皆様も体調管理には、お気を付けください。

vol. 03
令和元年度 第3号
(年間4回発行 通巻第153号)

組合活性化情報 中央会とくしま



氷瀑 水彩画/布川 嘉樹